



2024年度夏季海外研修 BEVI分析結果

Discover your potential

SOKA University

2024年度 夏季実施研修 (全参加者数136名* 全学部生の2.4%)

*イースト大学参加者数不明

主催	研修名	参加者数	目的	主催	研修名	参加者数	目的	
国際部	アルカラ大学研修	8名	研修	WLC	イースト大学研修 2期	不明	研修	
	慶熙大学研修	14名	研修		イースト大学研修 2期	不明	研修	
	慶南大学研修 (回答者数の不足によりデータ 作成不可)	4名	研修	経営学部	GPカナダ	1名	研修 (回答者数の不足によりデータ作 成不可)	
	グリフィス大学研修	20名	研修		法学部	Peace & Human Rights フィリピン短期海 外研修	18名	研修 (回答者数の不足によりデータ作 成不可)
	トゥンクアブドゥルラーマン大学研 修	18名	研修	理工学部	中国浙江大学短 期研修	2名	研修 (回答者 数の不足により データ作成不可)	
	FPT大学研修	15名	研修					
	オストラヴァ大学研修	6名	研修					
	オーストラリア・インターンシップ	10名	インターン シップ					
	ケニアボランティア	20名	ボランティア					

■ 測定する「17の尺度」および「7領域」

【高】・【低】と表示した尺度はフルスケールスコア (BEVIが測定しようとする「中心的な本質」の全体スコア)算出の際の重み付けに利用
BEVI自体はスコアの高低について価値判断をしない(例えば宗教)。ただし、大学また教員は価値判断を行う (EX: 14のスコアが高い人はジェンダーの考えが保守的)

i. 妥当性 (Validity Scales)

- Consistency (一貫性): 類似又は同一の内容を測っているが表現の異なる質問項目に対する、回答の一貫性
- Congruency (適合性): 統計的に推定できる回答パターンとの、回答の一致の程度

ii. 形成的因子 (Formative Variables)

1. Negative Life Events (人生における負の出来事): 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦闘、多くの後悔

iii. 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)

2. Needs Closure (欲求の抑圧): 不幸な生い立ち/生活史、いさかいの多い/不安定な家族構造、物事が起こる原因・状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明
3. Needs Fulfilment (欲求の達成) 【高】: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり
4. Identity Diffusion (アイデンティティへの否定的な度合い): アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情

iv. 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)

5. Basic Openness (基本的な開放性) 【高】: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直
6. Self Certitude (自分に対する確信) 【低】 強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない

v. 批判的思考 (Critical Thinking)

7. Basic Determinism (決定論・必然論的性向) 【低】 差異/行動について簡潔な説明を好む、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦勞の多い生活史
8. Socioemotional Convergence (社会・情動の理解): 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない

vi. 自己の理解・アクセス (Self Access)

9. Physical Resonance (身体への共鳴): 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する (例:「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など)
10. Emotional Attunement (感情の調整) 【高】: 感情に動かされやすい、傷つきやすい、社交的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密
11. Self Awareness (自己認識) 【高】: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する
12. Meaning Quest (意味の探求): 物事の意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根気が強い、感受性が高い、弱者への思いやり

vii. 他者の理解・アクセス (Other Access)

13. Religious Traditionalism (宗教的伝統主義、信仰心) 【低】 宗教心があつい、自己/行動/出来事を神/霊的な力によるものと考え、
「来世」を信じる
14. Gender traditionalism (ジェンダー的伝統主義) 【低】 男性と女性はある型にはまるよう創られている、
伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む
15. Sociocultural Openness (社会文化的オープン性) 【高】: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的/オープンである

viii. 世界の理解 (Global Access)

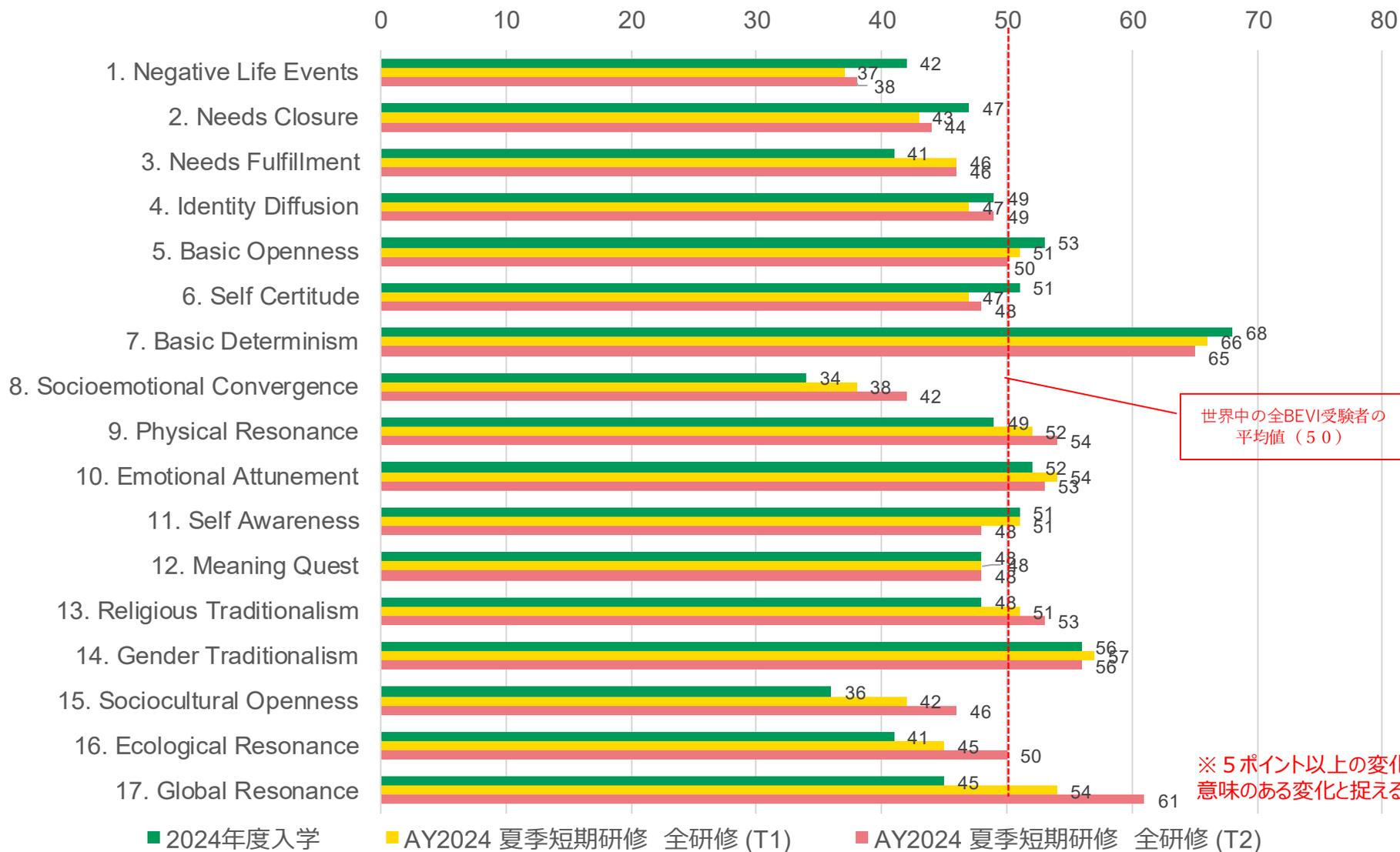
16. Ecological Resonance (生態との共鳴) 【高】 環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している
17. Global Resonance (世界との共鳴) 【高】: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる

まとめ（全体）

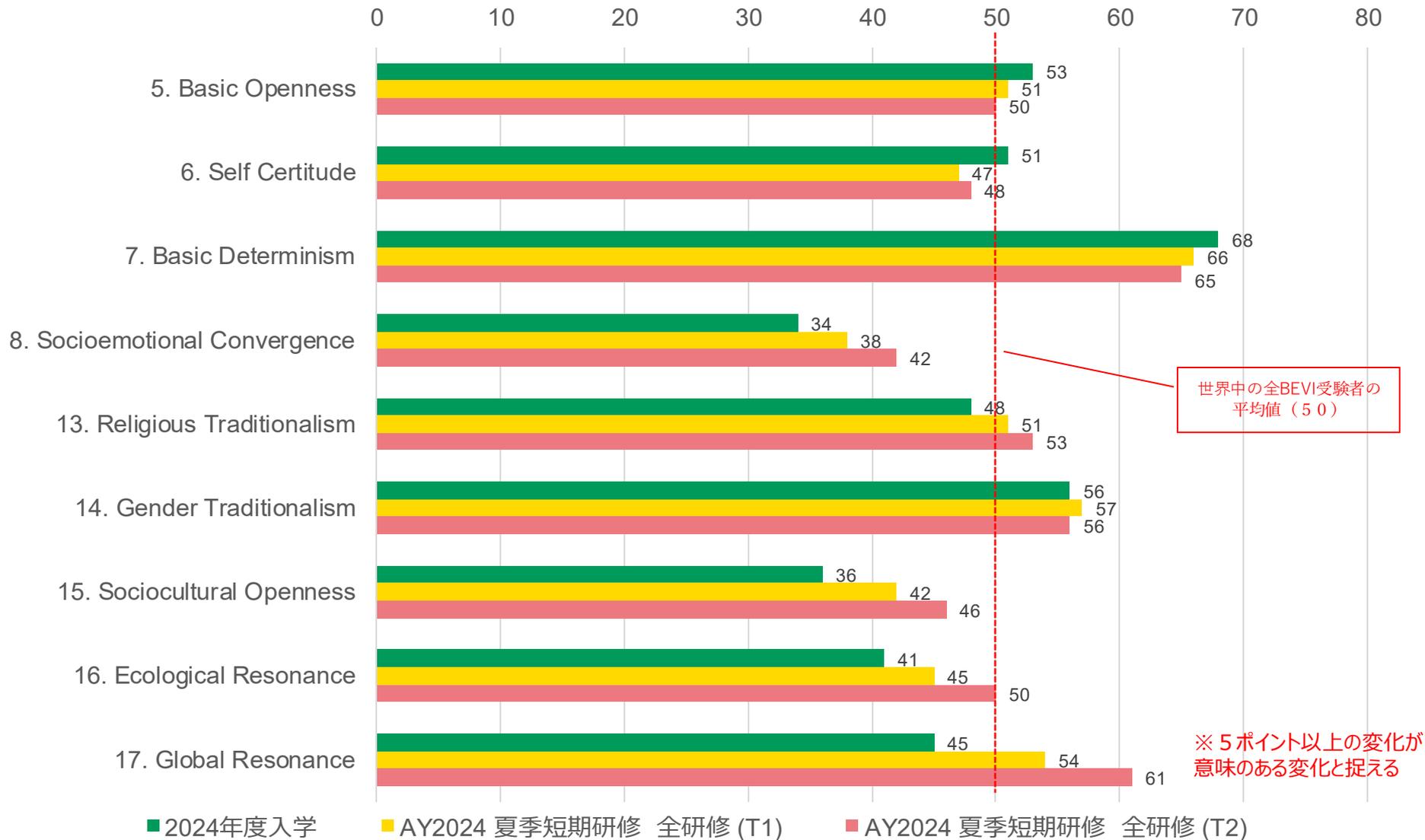


- 夏季海外研修に参加している学生層と2024年度新入生の平均値を比較 →スライド5
 - 国際性に関する尺度が高い学生層が短期研修に参加者する傾向にあると推測する。
※研修によっては2024年度新入生の平均値よりも低い場合もある（例:オストラヴァ大学研修）
- 国際性に関連する尺度（尺度15・17） について →スライド6～10
 - 研修全体の平均値の変化では、尺度17に意味のある変化が見られた。
 - 研修別で見ると、多くの研修で研修後のスコアが上昇している傾向にあり、短期留学の大きな目的の一つに対してインパクトを与える事ができていると推測される。
 - 全研修の平均値の変化では、総合的なコンピテンシーが中間の学生層（フルスケールスコアが中間の学生層）について、より大きな変化が見られる。
 - フルスケールスコアが中間の学生層については、尺度15でも意味のある変化が見られた。
 - 言語レベル（学生の自己申告）別で見ると、学生が選択した言語がより流暢な学生層の方が尺度15（社会文化的オープン性）、尺度17（世界との共鳴）の数値が変化している。

「AY2024新入生」と「AY2024夏季海外研修参加者(T1,T2)」の比較



「AY2024新入生」と「AY2024夏季海外研修参加者(T1,T2)」の比較 (尺度5~8, 13~17)

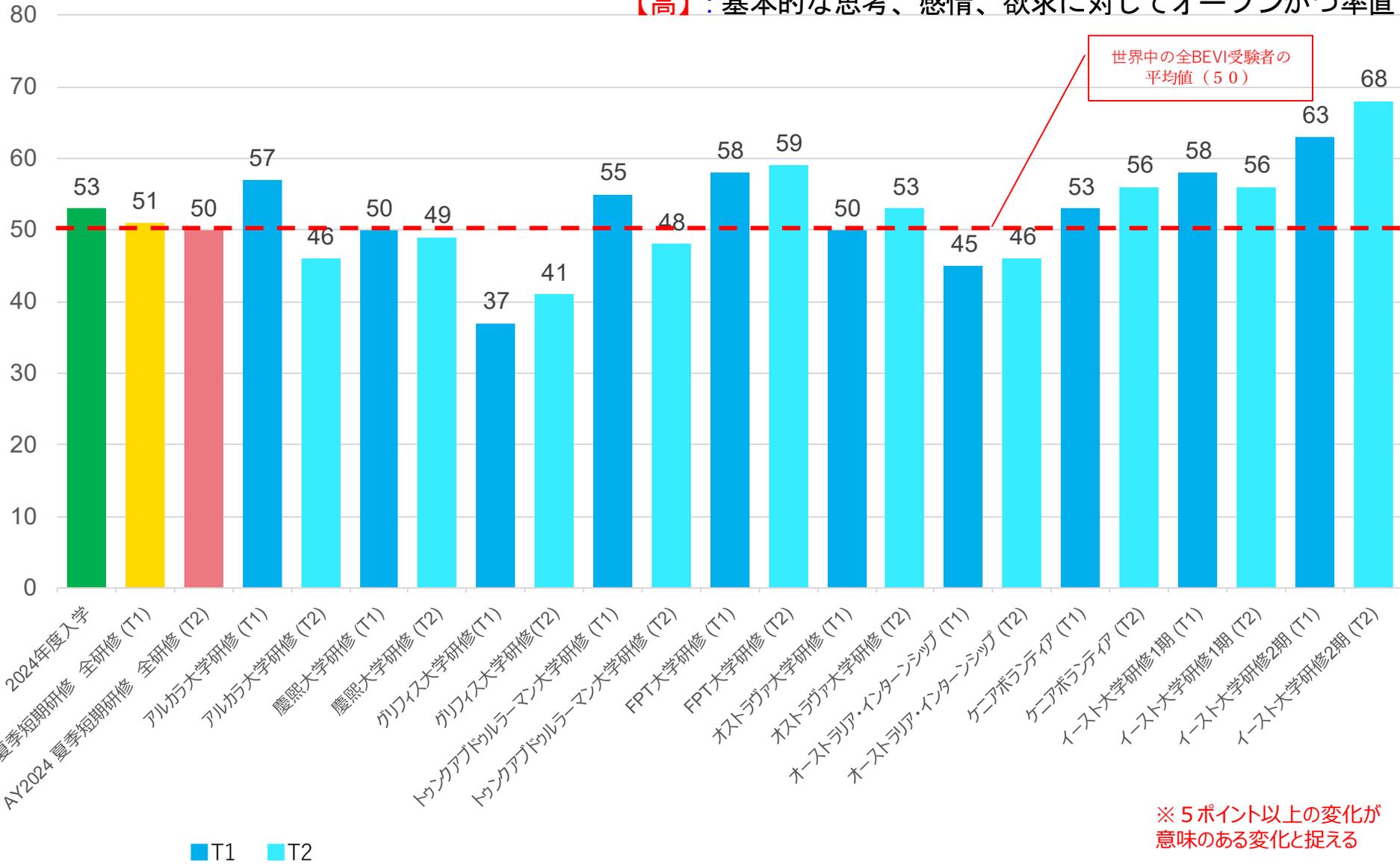


尺度5 基本的な開放性

大学別(T1,T2)比較



【高】：基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直



世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

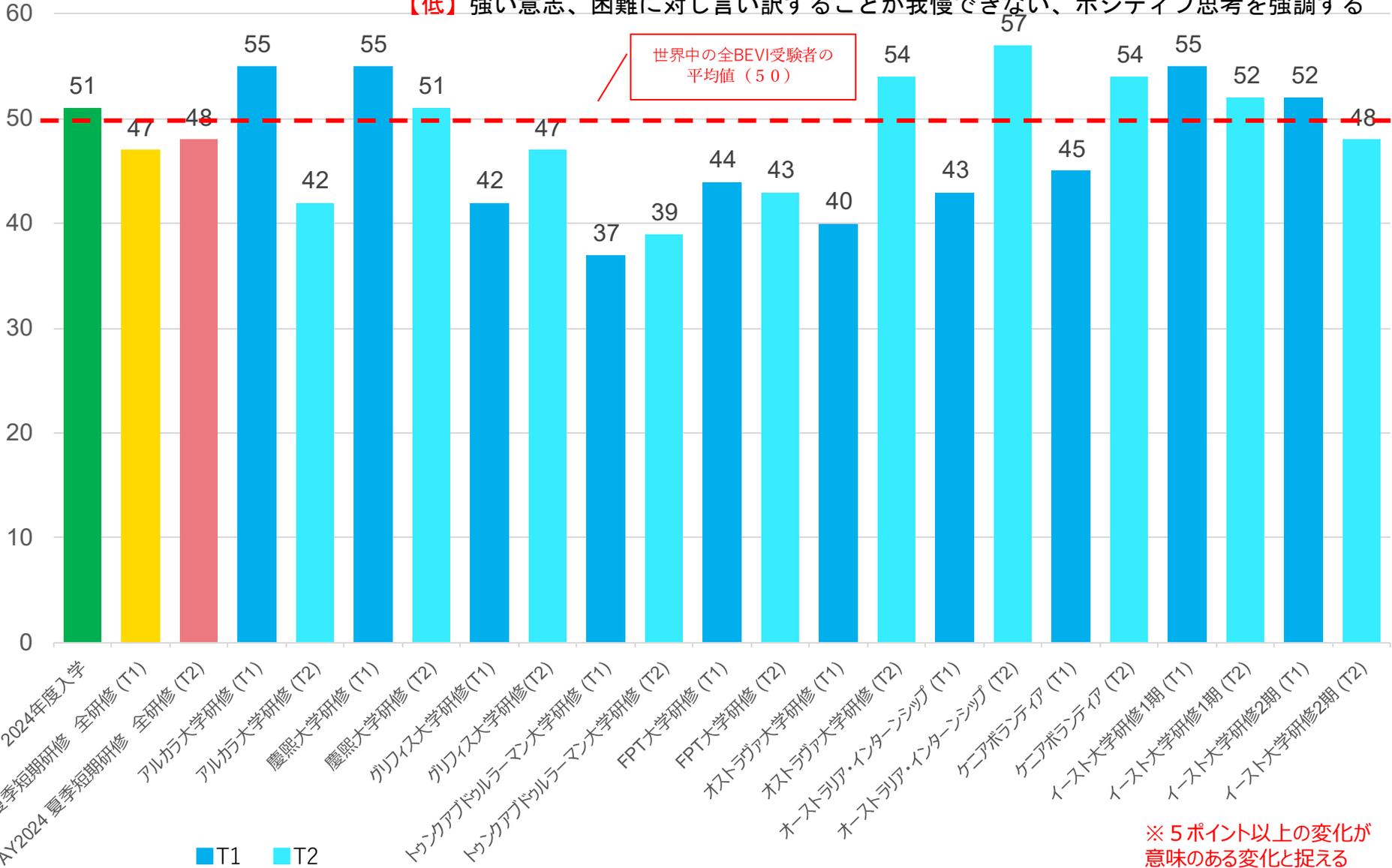
※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

尺度6 自分に対する確信

大学別(T1,T2)比較



【低】強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する

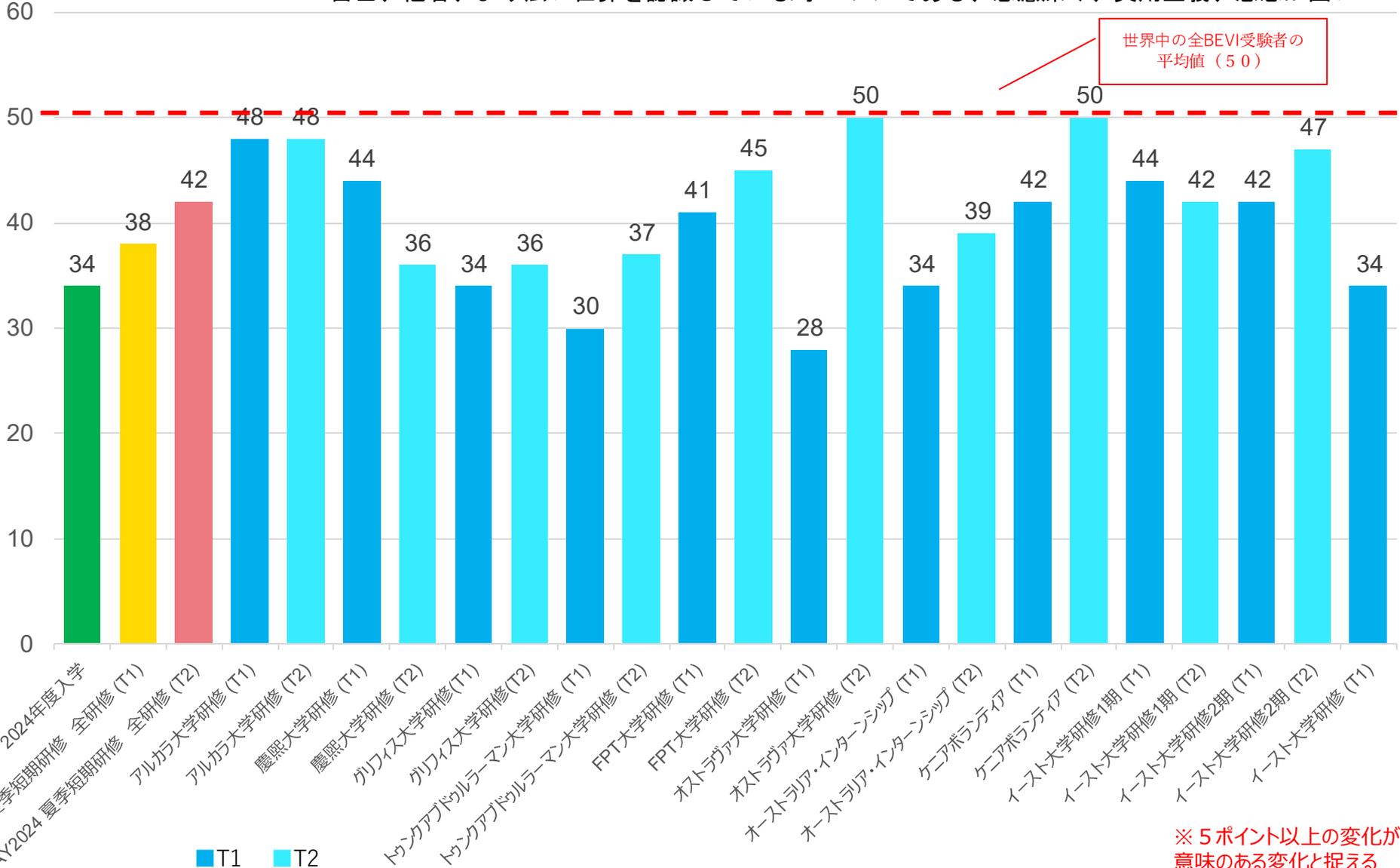


世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

尺度8 社会・情動の理解 大学別(T1,T2)比較

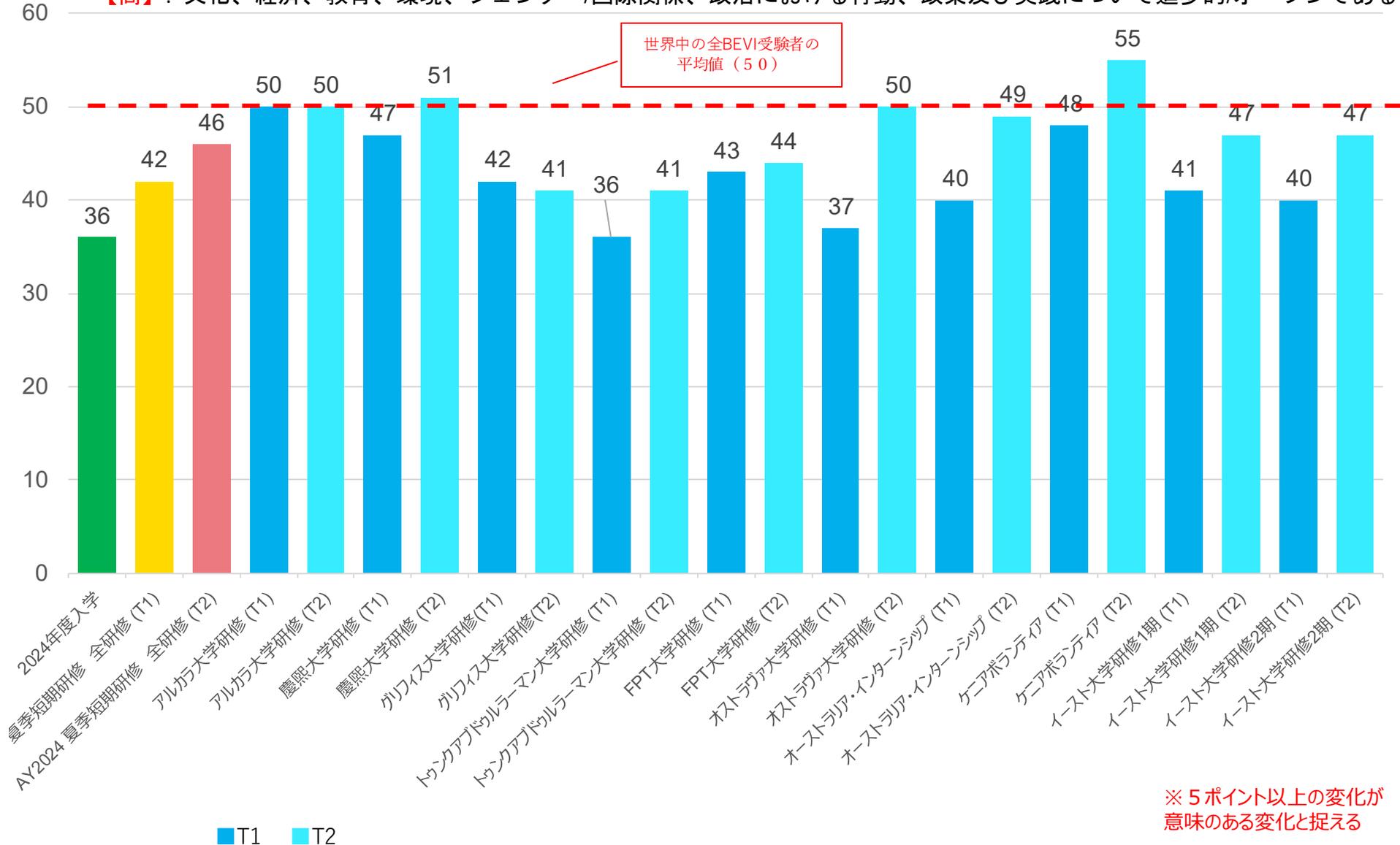
自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い



※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える

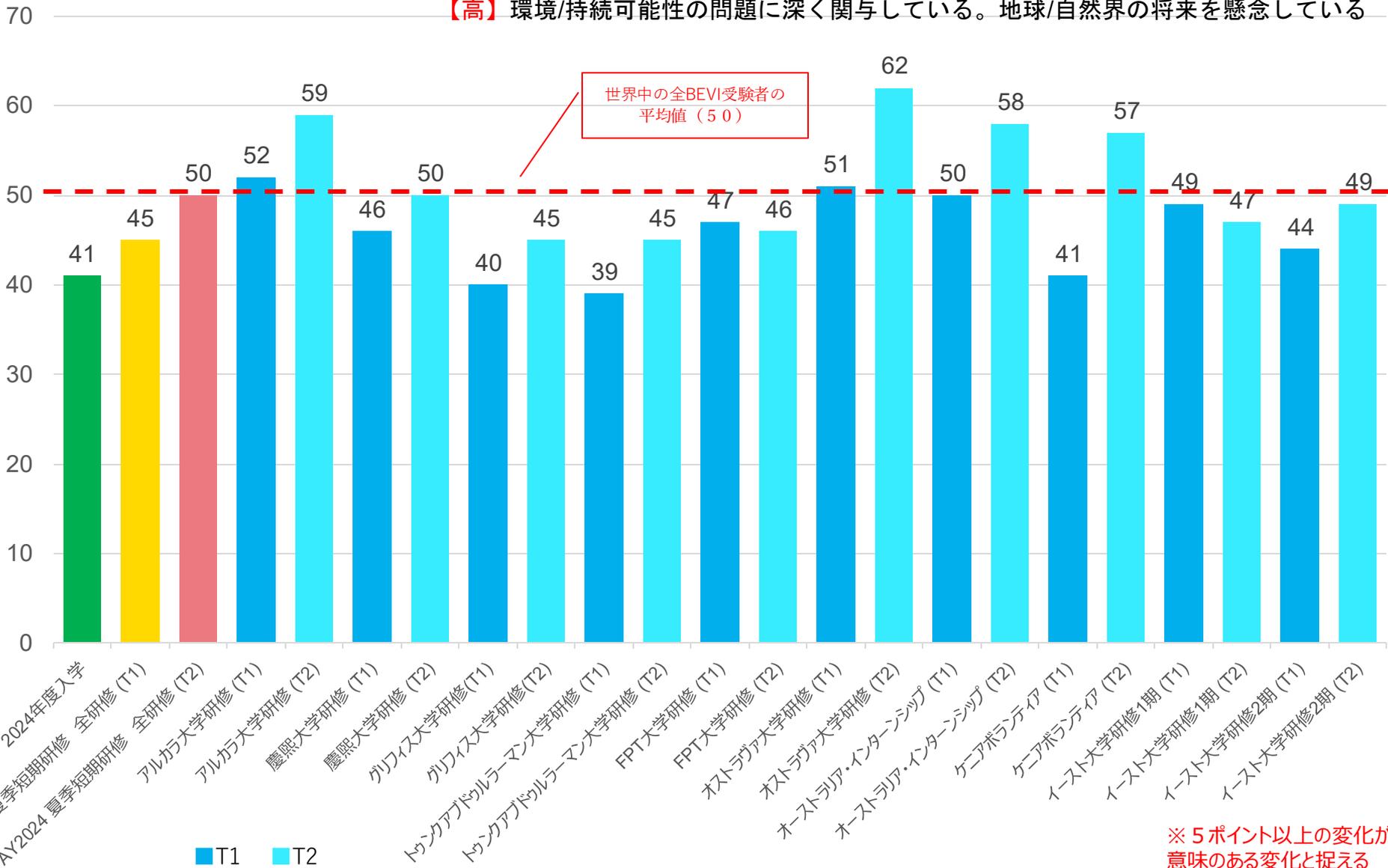
尺度15 社会文化的オープン性 大学別(T1,T2)比較

【高】：文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治における行動、政策及び実践について進歩的/オープンである



※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

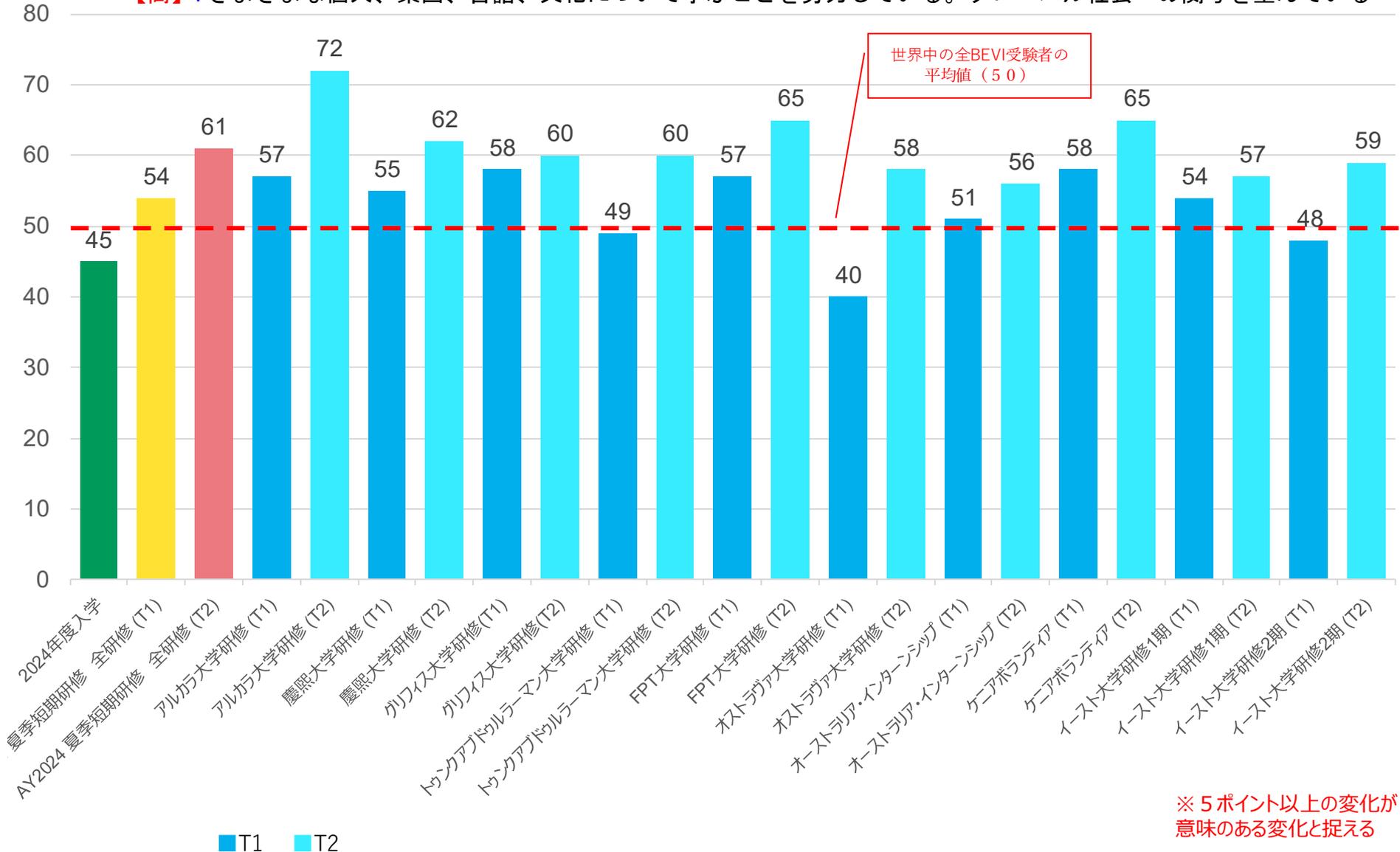
尺度16 生態との共鳴 大学別(T1,T2)比較



※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

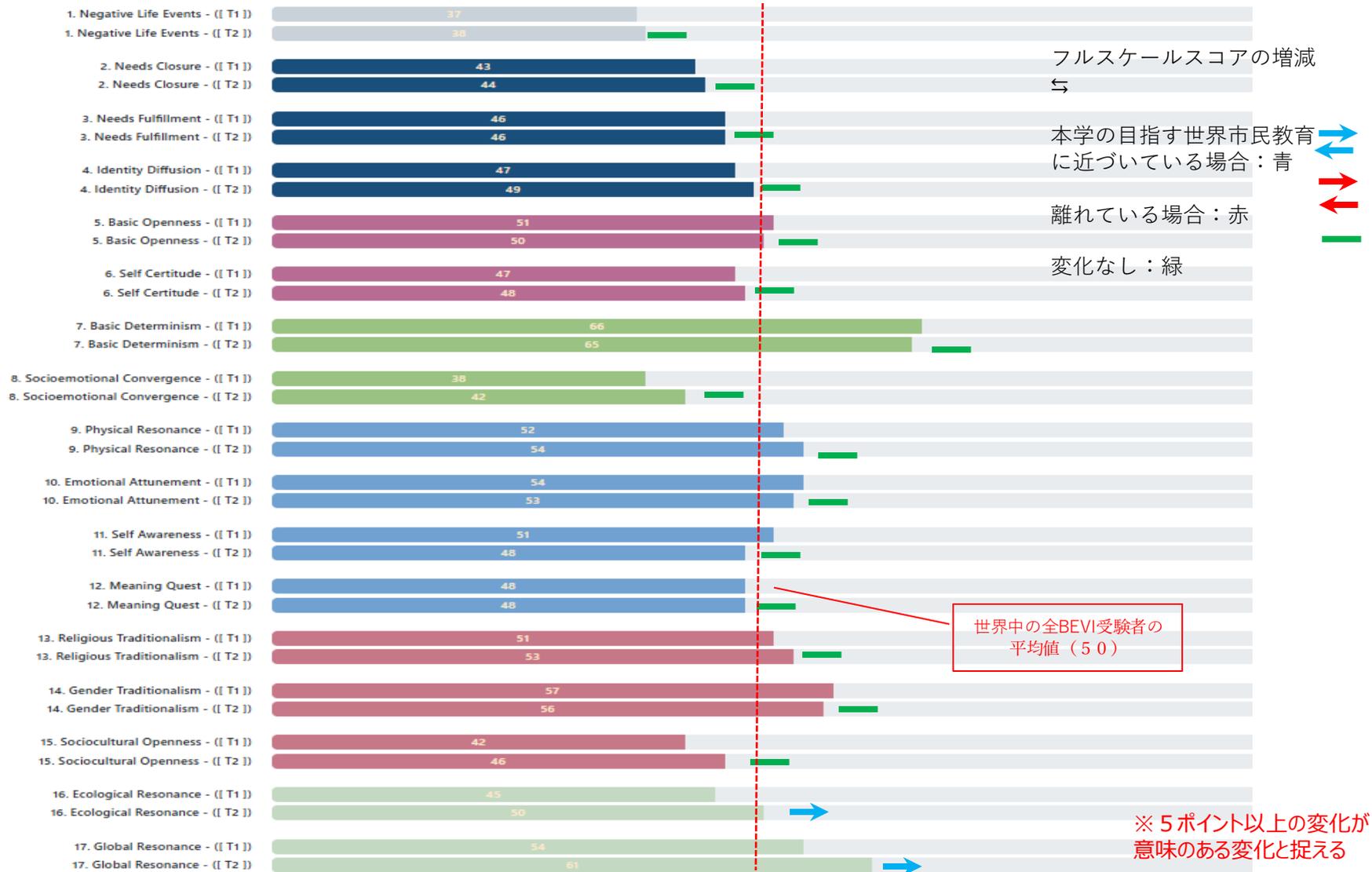
尺度17 世界との共鳴 大学別(T1,T2)比較

【高】：さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる



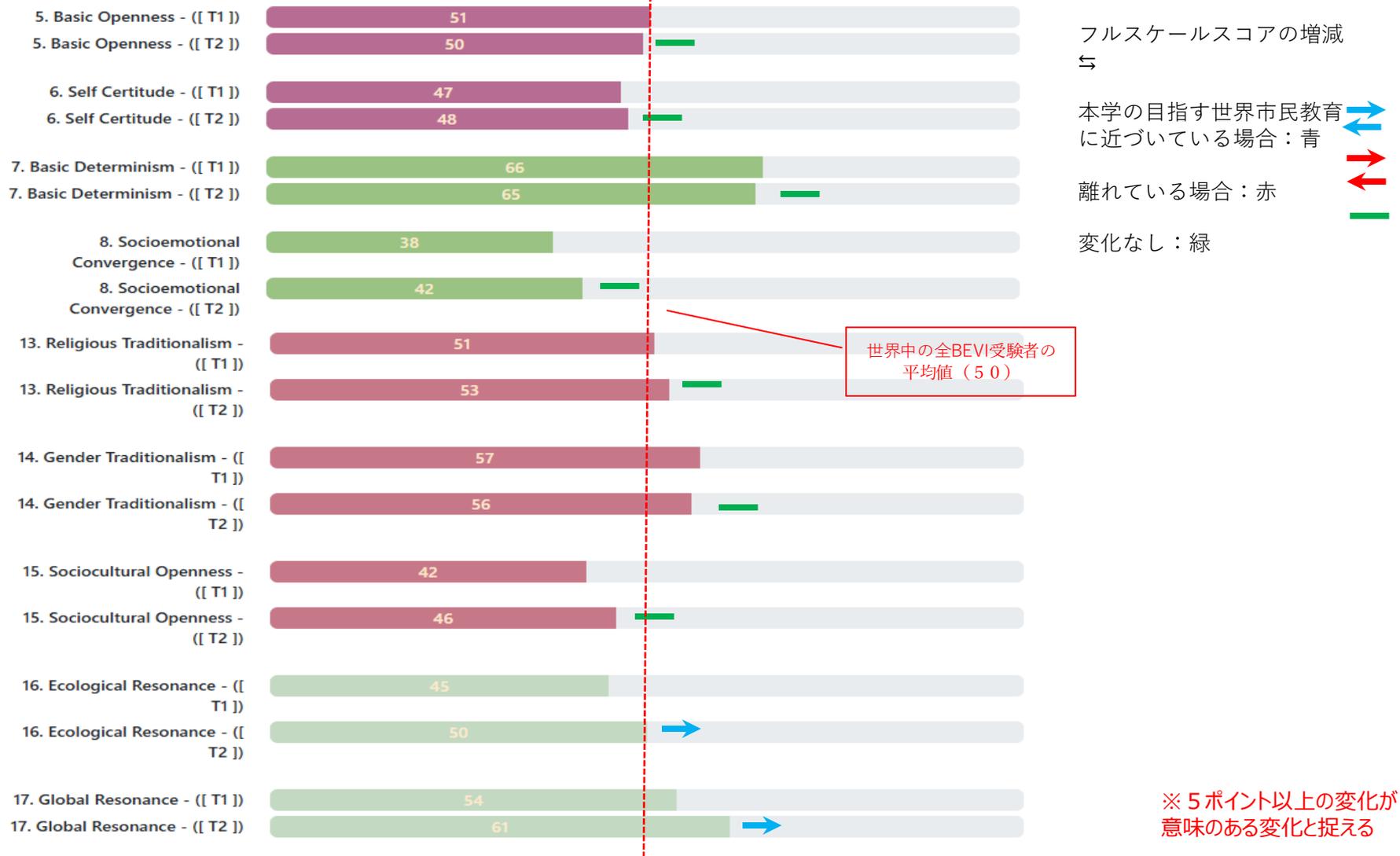
※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

AY2024 夏季海外研修の平均値 (N=123)



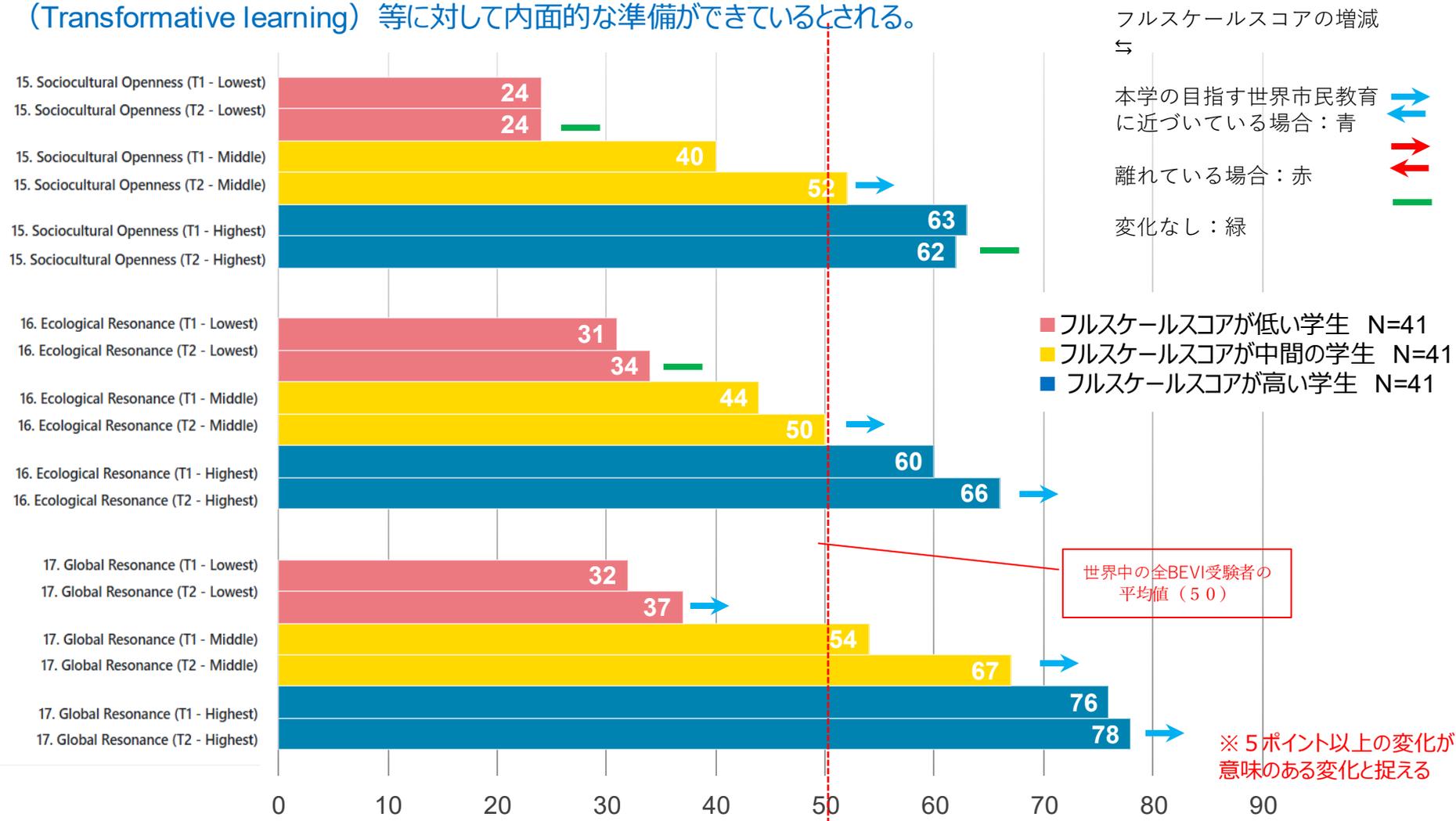
AY2024 夏季海外研修の平均値 (N = 123)

(尺度5~8, 13~17)

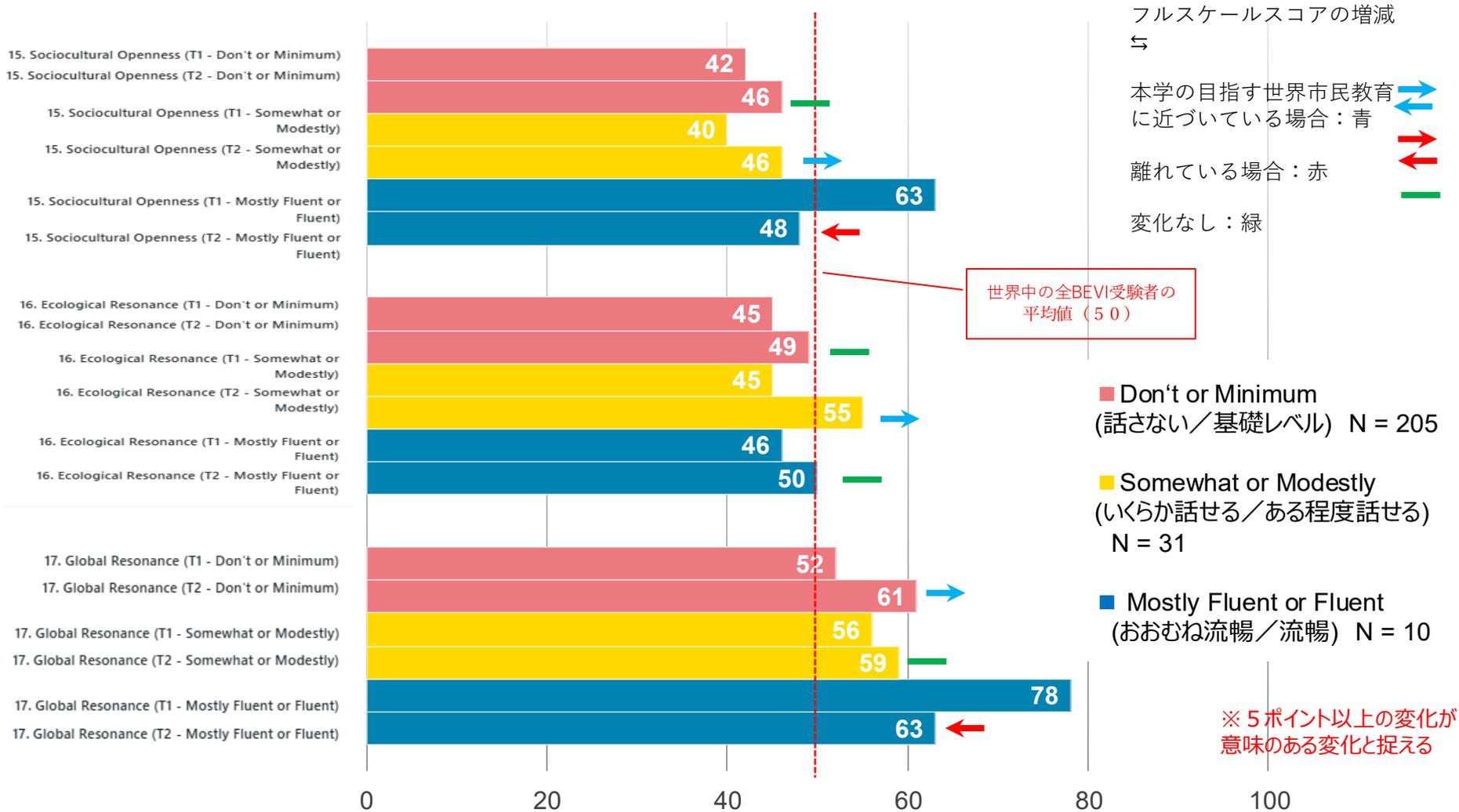


フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度

※総合的なコンピテンシーを表すスコア。スコアが高いほど、国際的・異文化・あるいは変容的学習 (Transformative learning) 等に対して内面的な準備ができていとされる。

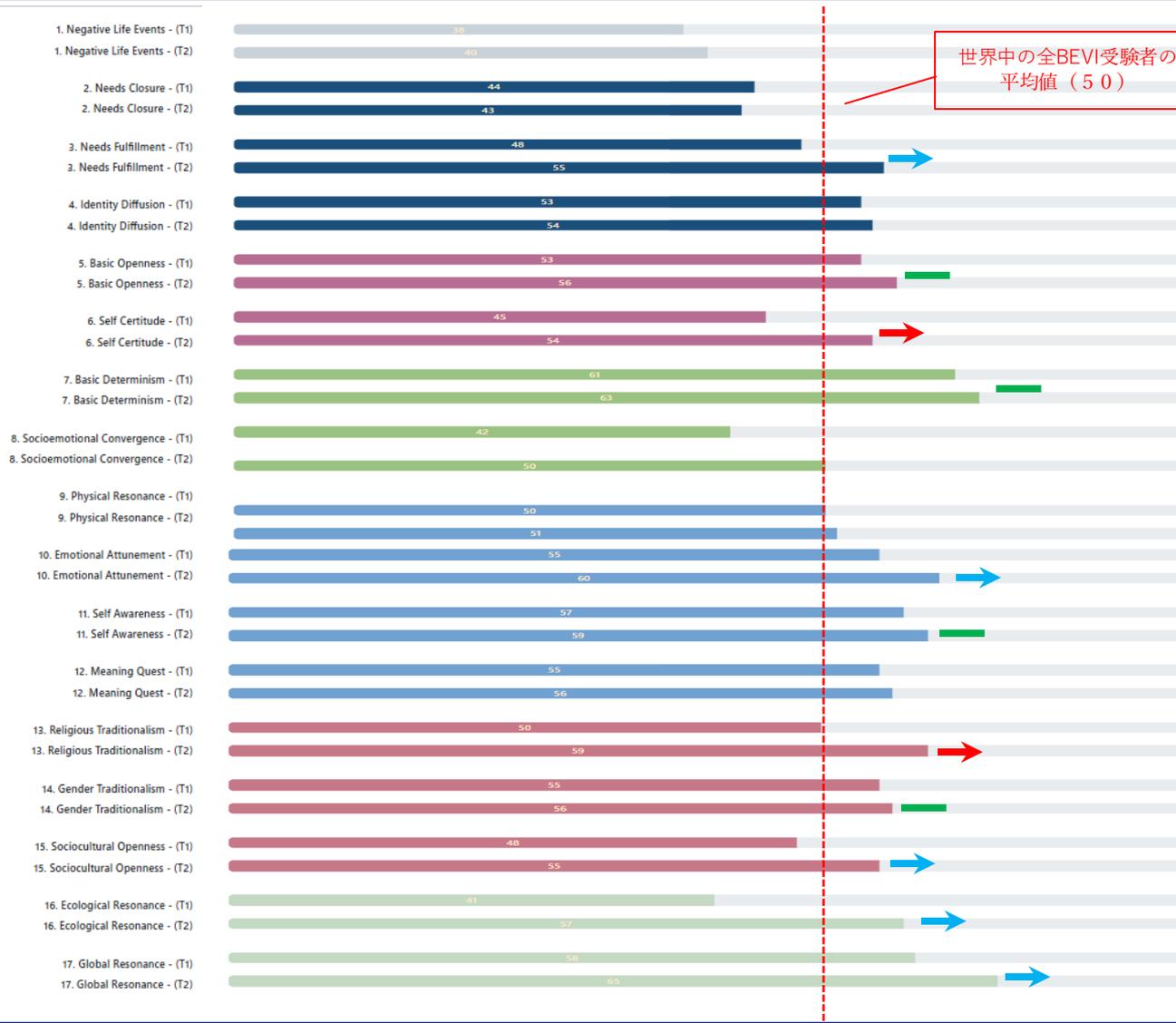


語学能力別で見る国際性に関する尺度（全体）



特徴的な研修のBEVI結果

国際部 ケニア・ボランティア N=19



世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

フルスケールスコアの増減
↕

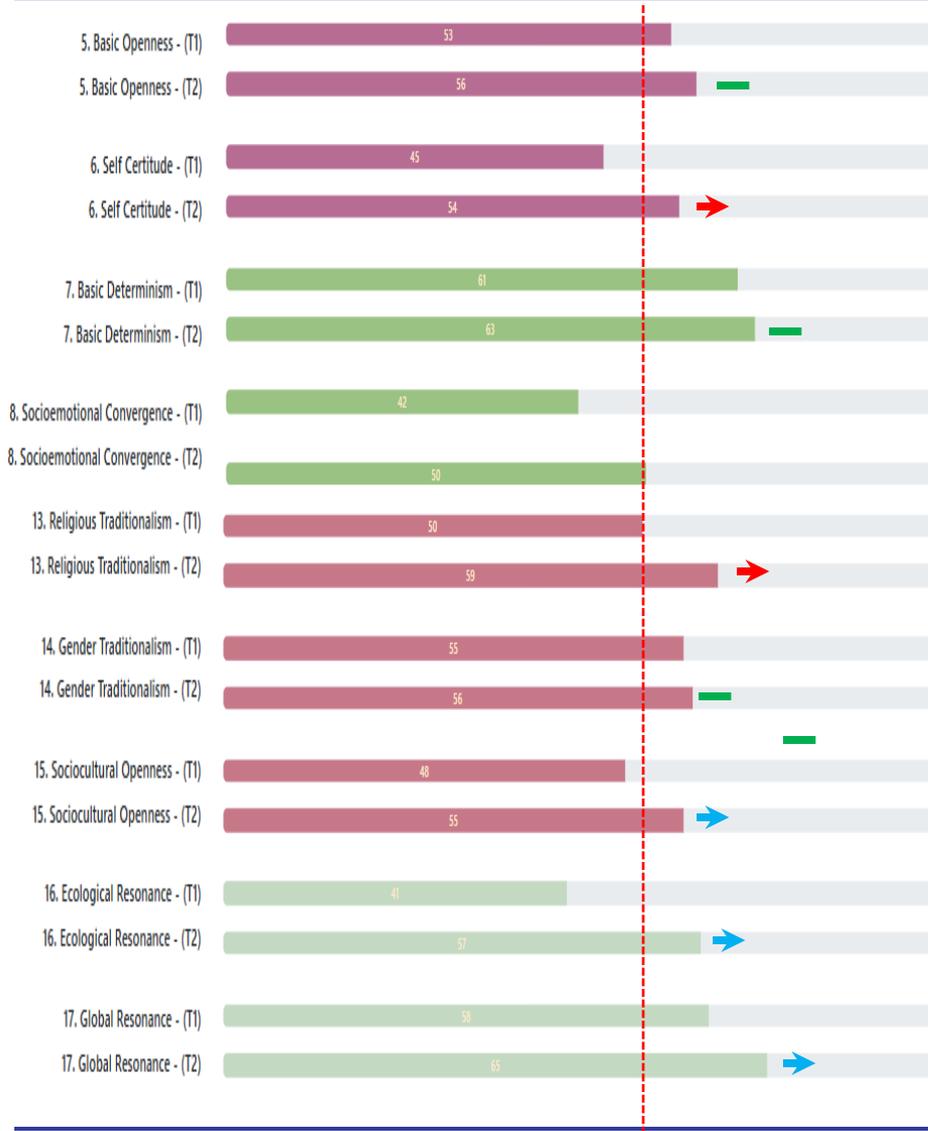
本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

離れている場合：赤

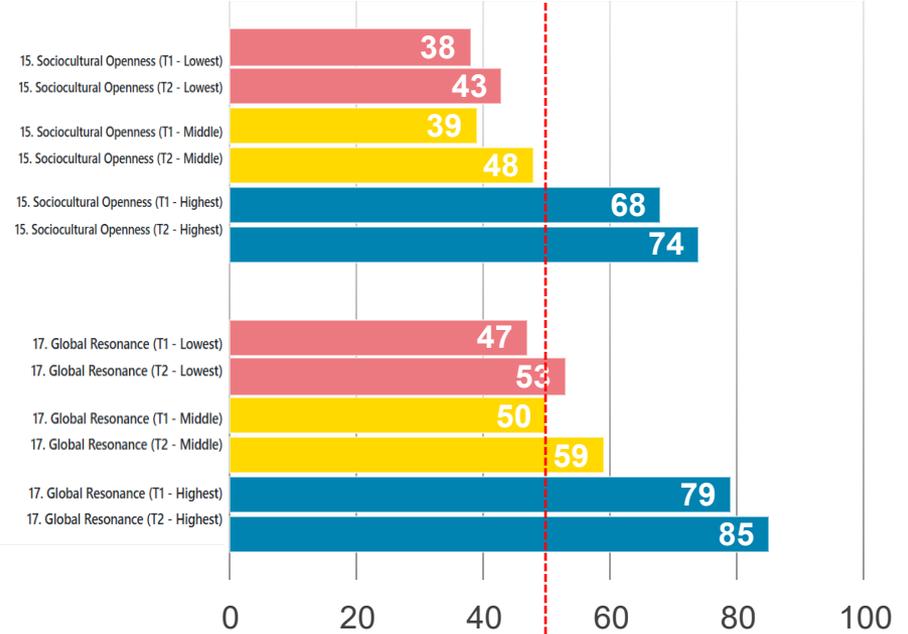
変化なし：緑

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

国際部 ケニア・ボランティア N=19 (尺度5~8, 13~17)



フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度



- フルスケールスコアが低い学生 N=6
- フルスケールスコアが中間の学生 N=7
- フルスケールスコアが高い学生 N=6

尺度15(社会文化的オープン性)・尺度17(世界との共鳴)についてはどの学生層も増加している。特にフルスケールスコアが中間の学生の増加幅が大きい。

※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える



Q1 どのような出来事また状況が、あなたに最も影響を与えたでしょうか。またそれはなぜですか。

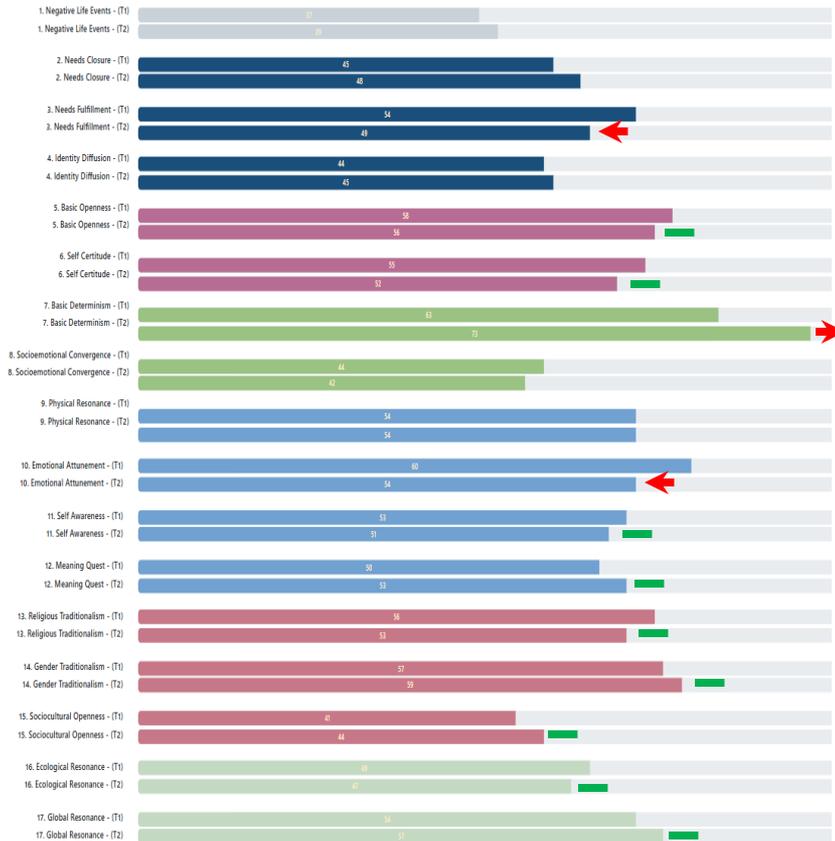
- 孤児院で出会った高校生の母親たちと幼い子供たちがに会っていくうちに、「かわいそう」という他人事のような心配ではなく、彼らからは課題を乗り越えようとするエネルギーや夢に向かって努力し続ける姿に尊敬を感じるようになった。同情の目では一切に見ることはなかった。
- 孤児院という環境が私の価値観を変えた。ボランティアとして孤児院へ行く前は、この施設に対し悲惨や貧困というイメージが先行していたが、そこにいた子供たちは、豊かとはいえない環境の中である物を活用して明るく生きていた。置かれた場所で美しく咲いていた。

Q3 プログラムの結果、あなた個人としては何を学ぶことができるでしょうか/できたでしょうか。

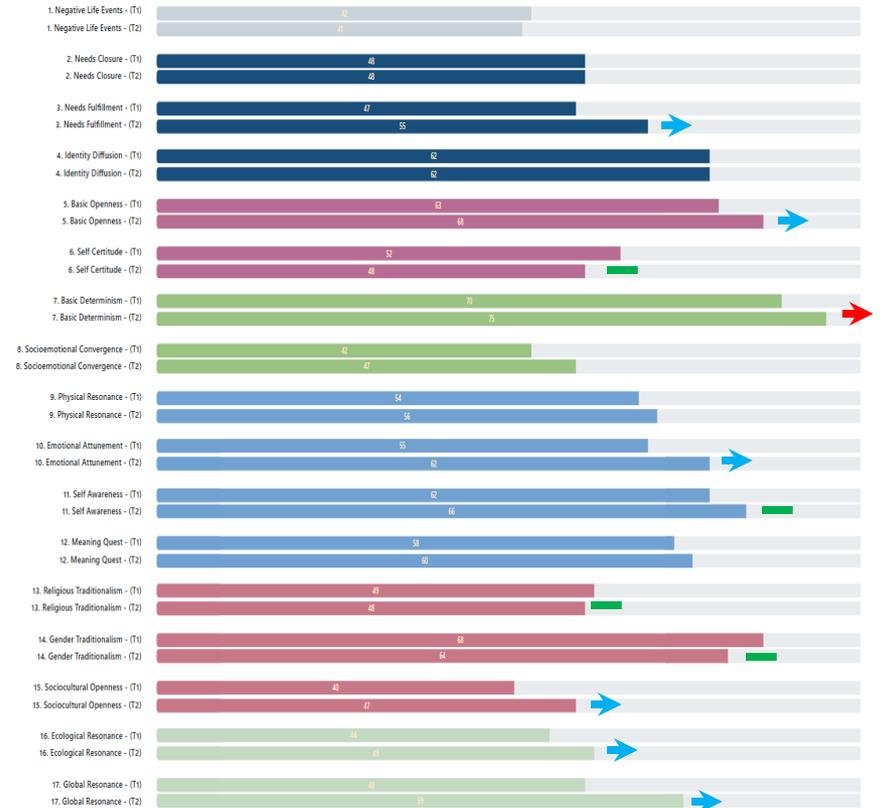
- 貧しい人を見て、かわいそうとか何かしてあげなくちゃと思うのではなく、共に頑張ろう、なんとしても生きて、社会を変えようという気持ちの方が大事なんじゃないかと心から学んだ。
- アフリカの子どもたちや学生たち、スタッフの大人と関わることで、その国の人やその国自体を、ただの知識上で知っているひとつの国ではなく、「あの人がいる国だ」と身近に感じるができると考えている。
- 子どもたちと交流する中で、国も言語も異なる人と人同士であっても、心を通わせることができるということあらためて知り、その素晴らしさを感じた。

WLC イースト大学研修1,2期 N= 37

1期 N=19



2期 N=18



尺度15・17

1期においては意味のある変化は見られなかったが、2期は数値が顕著に上昇している。

尺度15	T1	T2	尺度17	T1	T2
1期	41	44	1期	54	57
2期	40	47	2期	48	59

※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える



Q3 プログラムの結果、あなた個人としては何を学ぶことができるでしょうか/できたでしょうか。(1期)

- 多くの友達ができ、英語を勉強し話せるようになりたいと思わせてくれたことが今回参加して得た1番の成果。
- 英語を話す以前に、知らない人とすぐ打ち解けるための行動力が足りてないことに気づいた。

Q3 プログラムの結果、あなた個人としては何を学ぶことができるでしょうか/できたでしょうか。(2期)

- 異文化を理解する楽しさや違いを認めて仲良くなったり、深い話をするということが決して遠いことではなく身近な対話から始まるということが学んだ。
- 海外に行ったことで異文化に対する抵抗が薄れて、受け入れていけるものだと思えるようになった。自分の勉強不足が明るみになった。
- 他国に行くだけでなく、現地の人を一人の人間として人と人として関わることで多くのことが見えるということ。特に、余計なことを思わず、まずは相手を知る努力をするべきだということ学んだ。
- 世界中には一日過ごすのが苦しいほど乏しい地域があって、具体的にそれを世界規模で、また持続的な解決策をもって取り組んでいくべきだという考えを自分が持っていることに気づくことができた。

各プログラムのBEVI結果



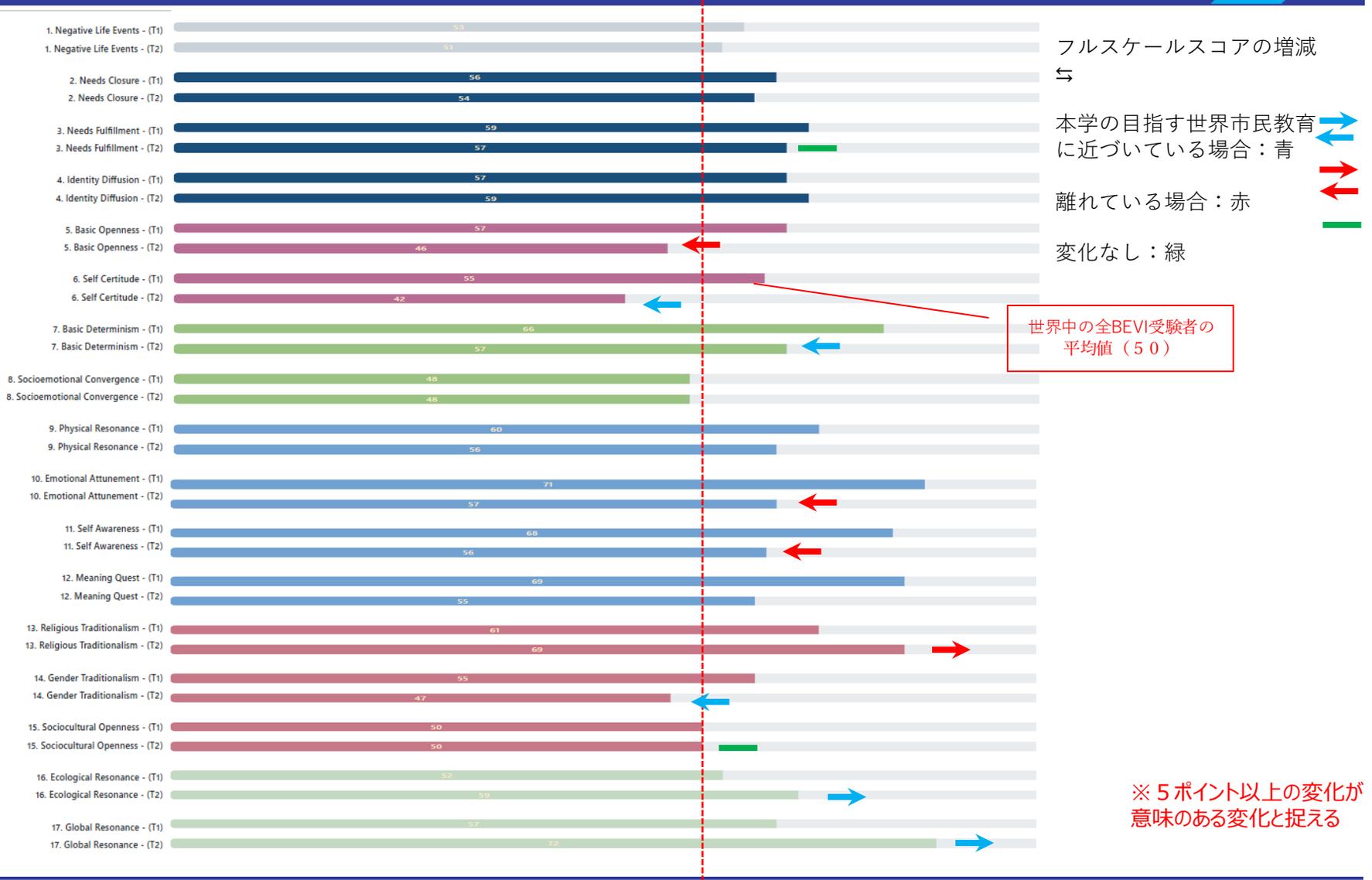
【国際部 アルカラ大学研修】 のBEVIによる分析

期間： 2024年7月30日～8月18日

参加者： 8名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する





フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える



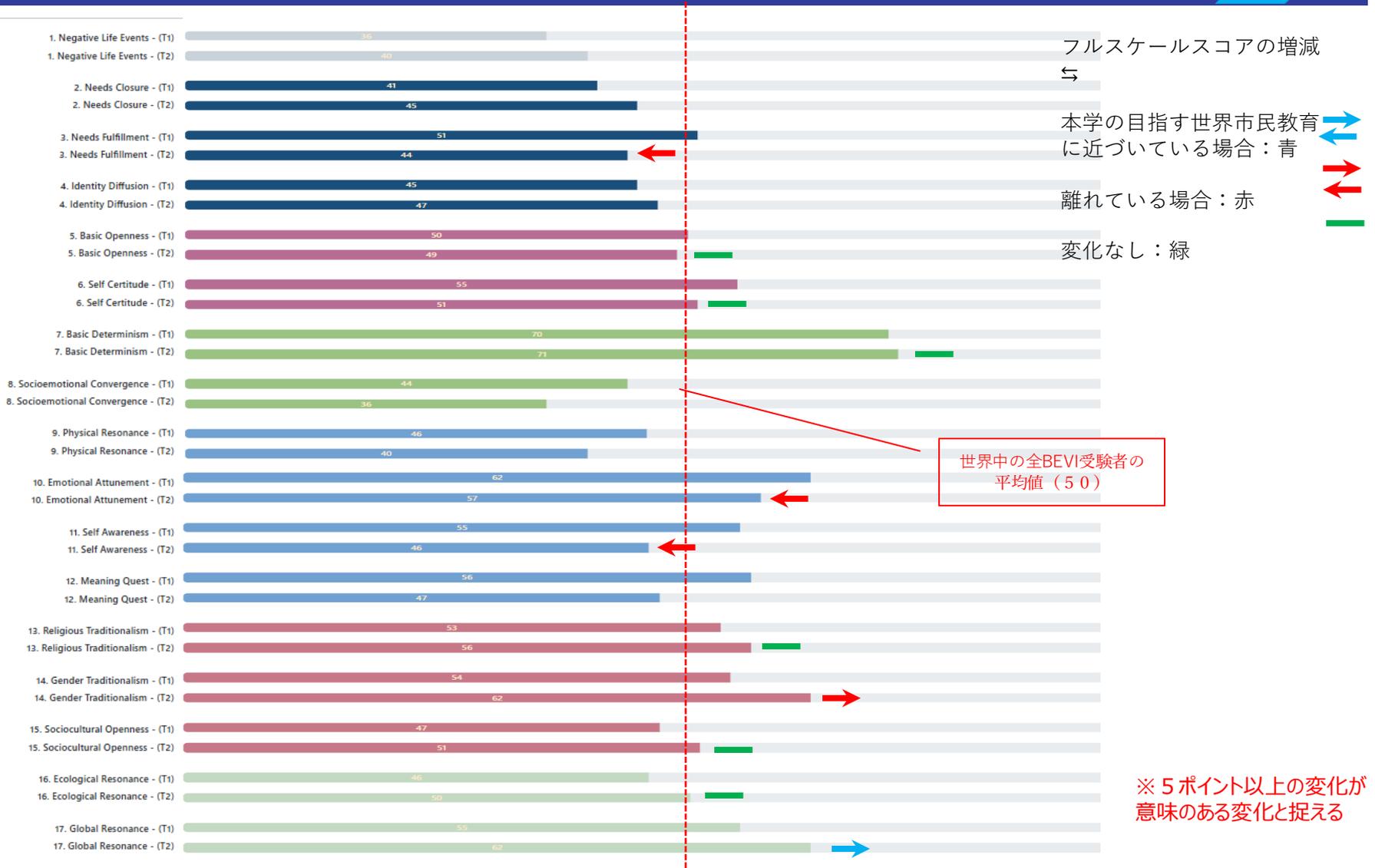
【国際部 慶熙大学研修】 のBEVIによる分析

期間： 2024年8月4日～8月27日

参加者： 14名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する







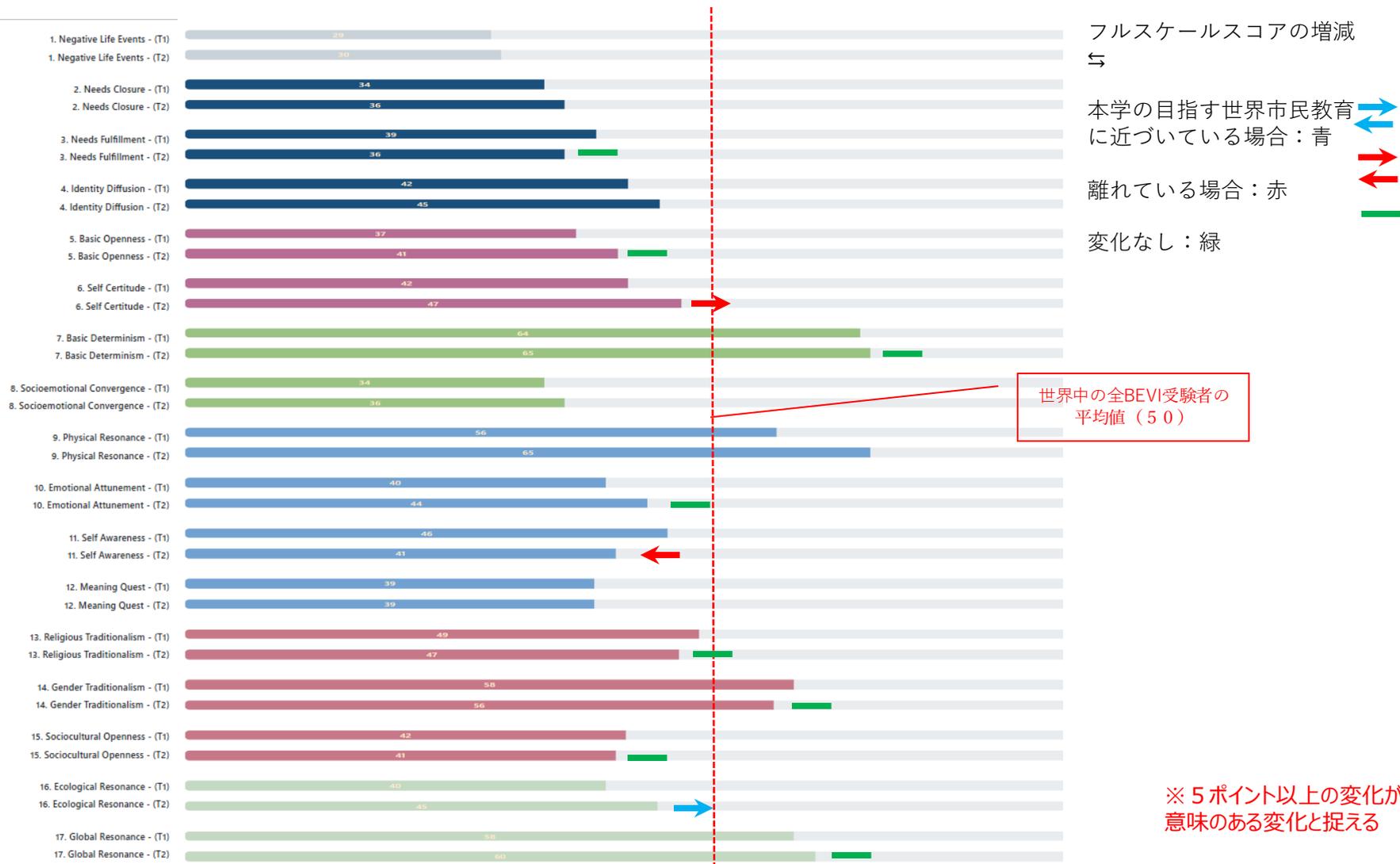
【国際部 グリフィス大学研修】 のBEVIによる分析

期間： 2024年7月31日～8月17日

参加者： 20名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する





【国際部 トウクアブドウルラーマン大 学研修】

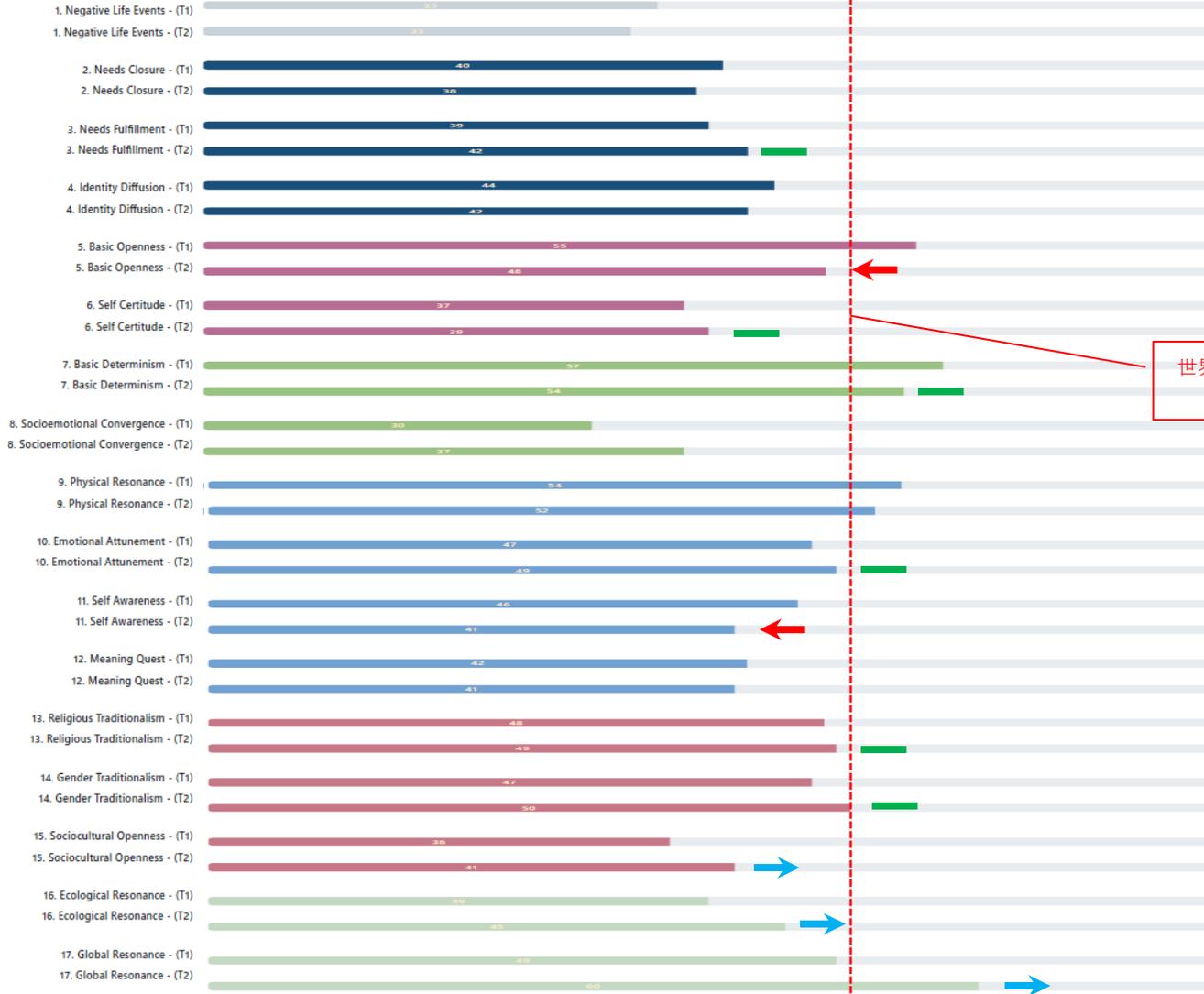
のBEVIによる分析

期間： 2024年8月5日～8月17日

参加者： 18名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する



フルスケールスコアの増減
↕

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青 →

離れている場合：赤 ←

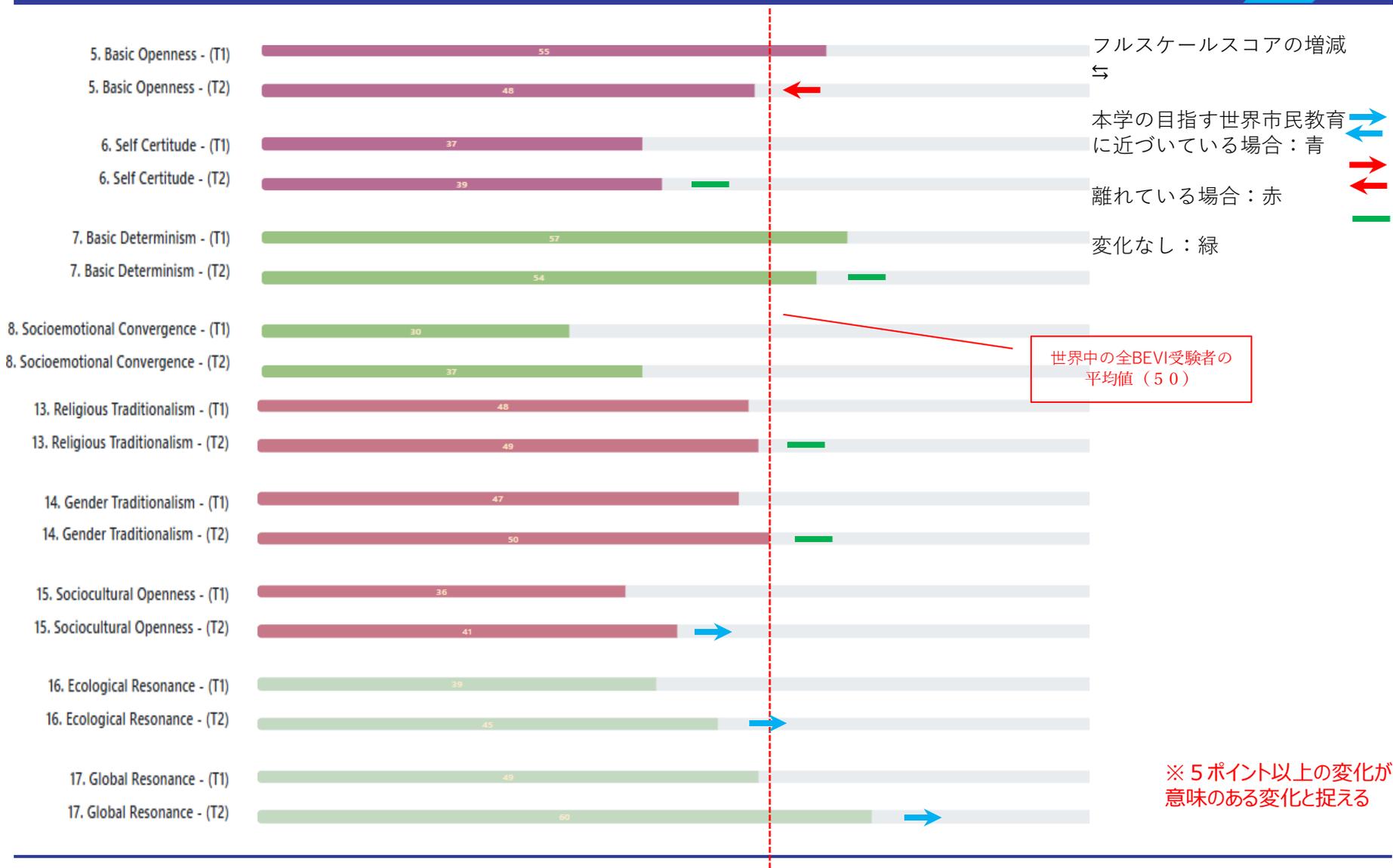
変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

国際部 トウクアブドゥルラーマン大学研修 (尺度5~8, 13~17)

N=15





【国際部 FPT大学研修】 のBEVIによる分析

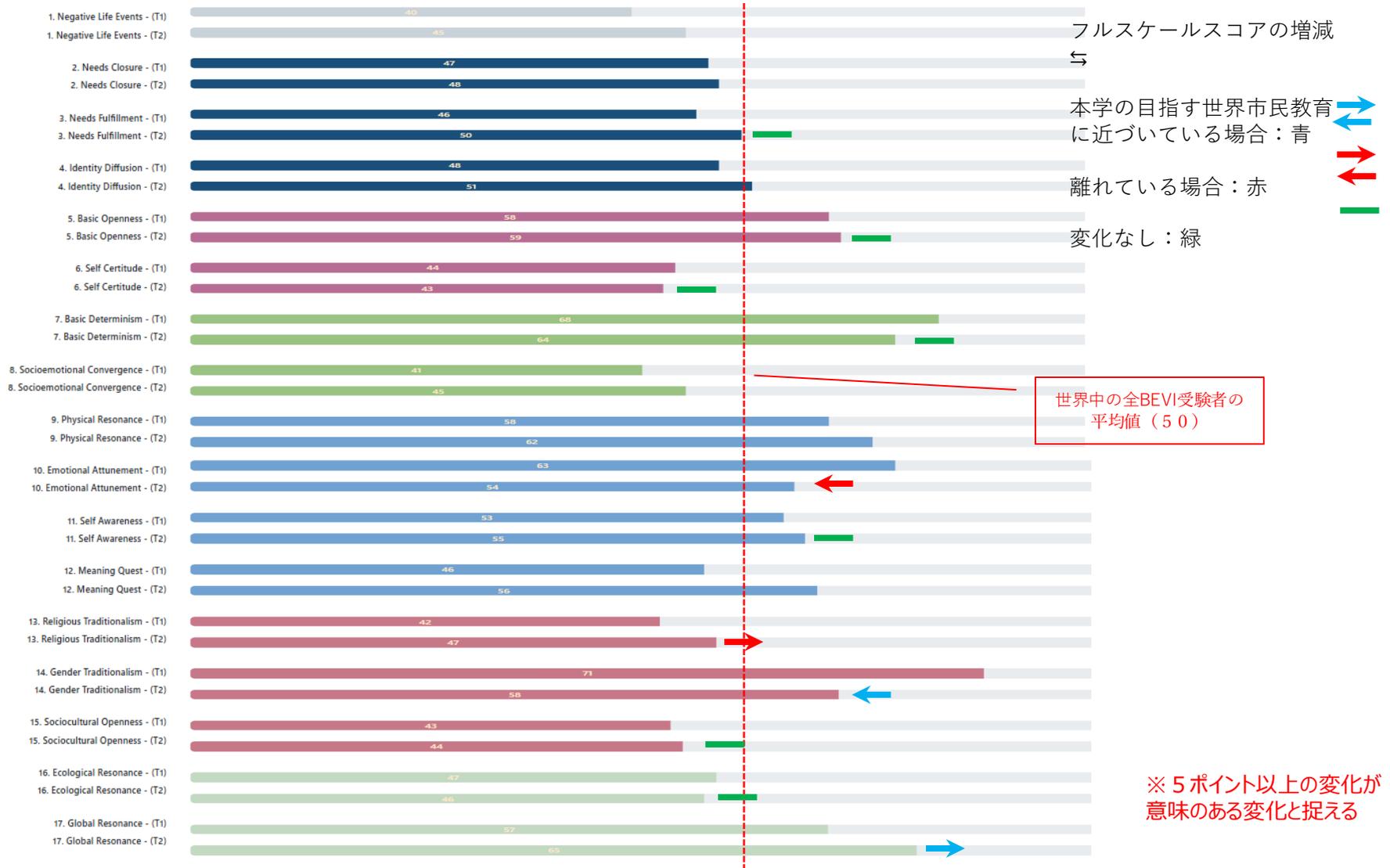
期間： 2024年8月4日～8月24日

参加者： 15名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 FPT大学研修 N=13



国際部 FPT大学研修 N=13 (尺度5~8, 13~17)





【国際部 オストラヴァ大学研修】 のBEVIによる分析

期間： 2024年8月17日～9月1日

参加者： 6名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 オストラヴァ大学研修 N=6



フルスケールスコアの増減
↕

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

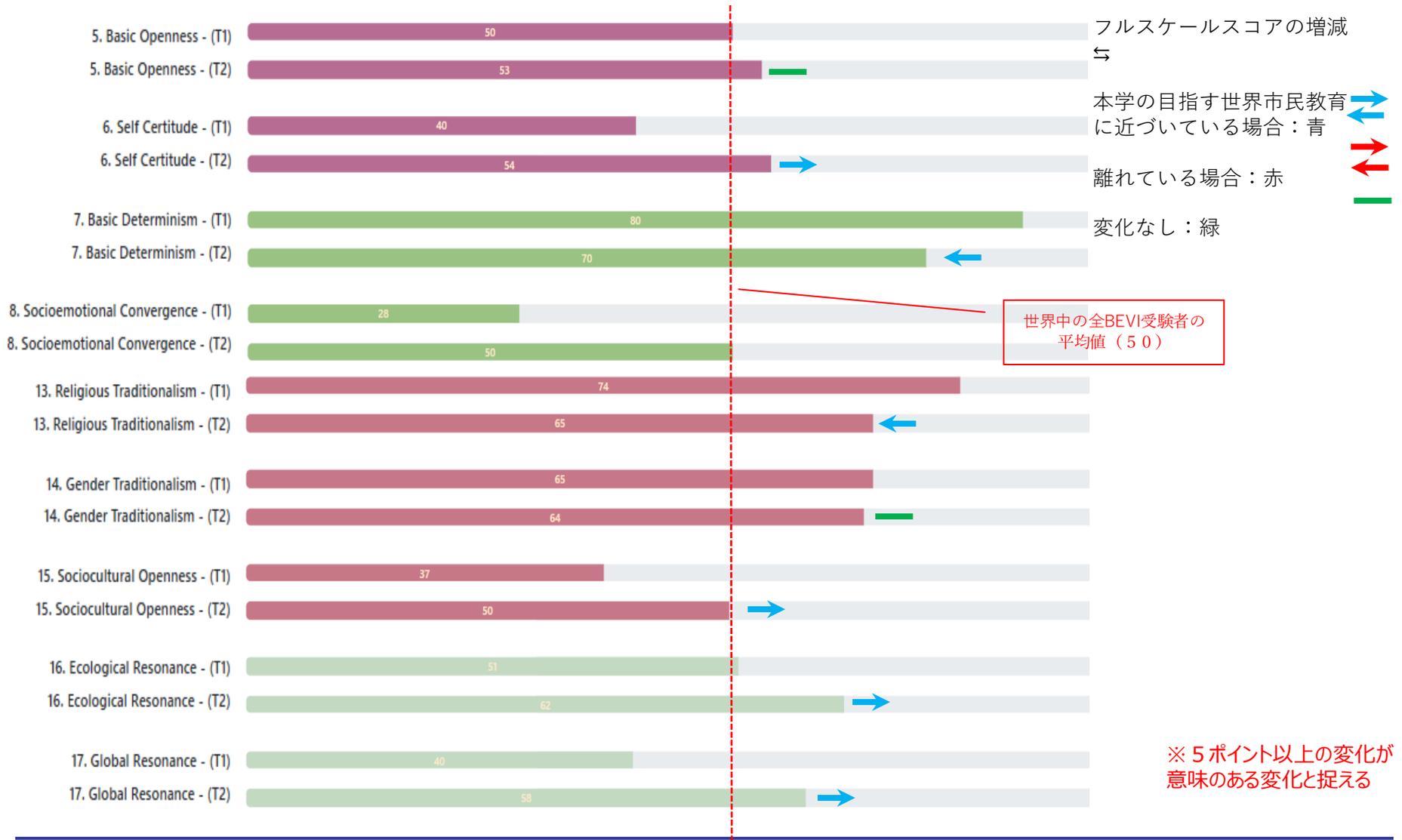
離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

国際部 オストラヴァ大学研修 N=6 (尺度5~8, 13~17)



※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える



【国際部 オーストラリア・インターンシップ】 のBEVIによる分析

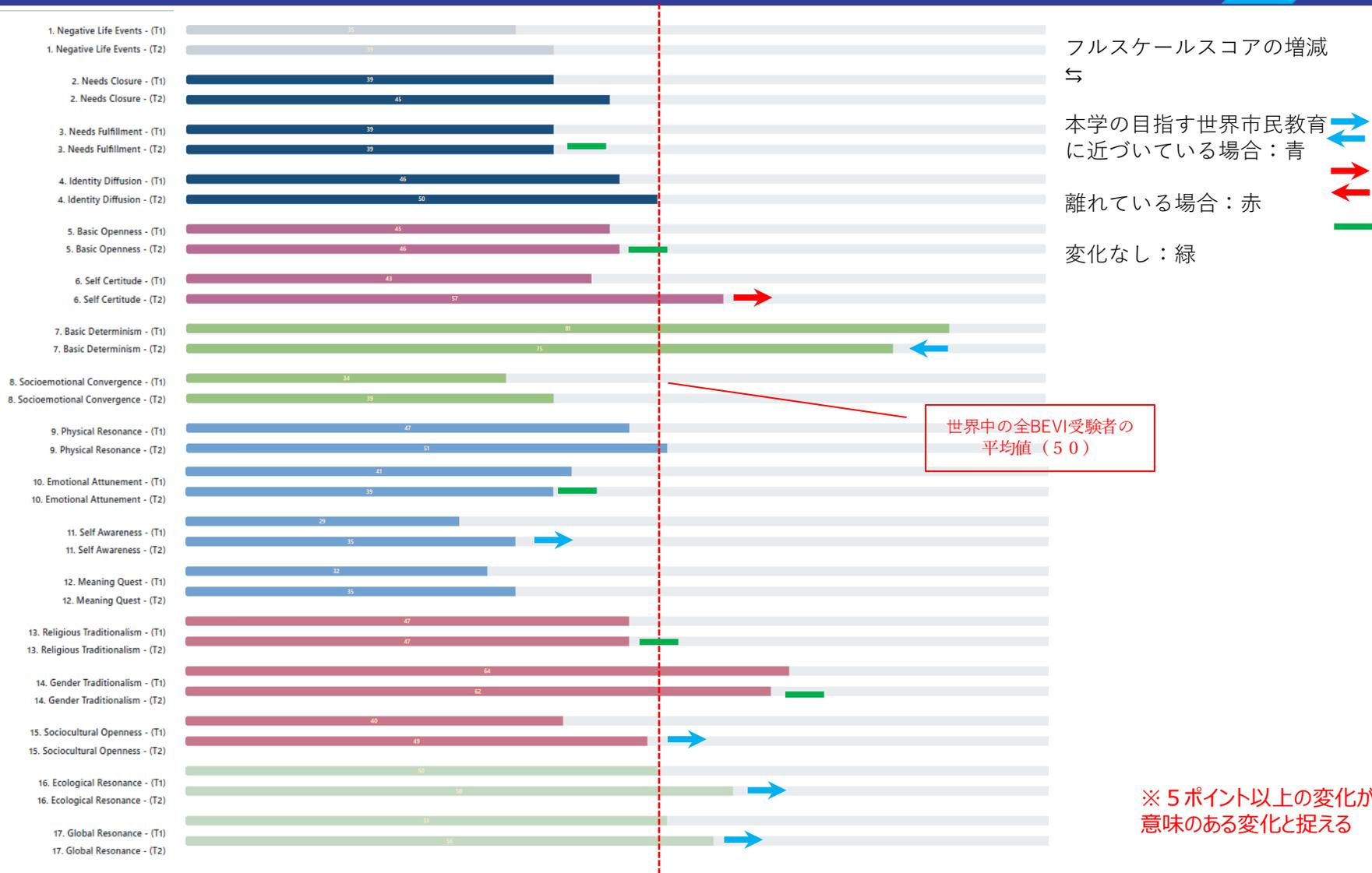
期間： 2024年7月31日～8月31日

参加者： 10名

研修目的： インターンシップ

研修内容： 現地でのインターンシップ。ホームステイ。

国際部 オーストラリア・インターンシップ° N=6



国際部 オーストラリア・インターンシップ^o N=6 (尺度5~8, 13~17)





【国際部 ケニア・ボランティア】 のBEVIによる分析

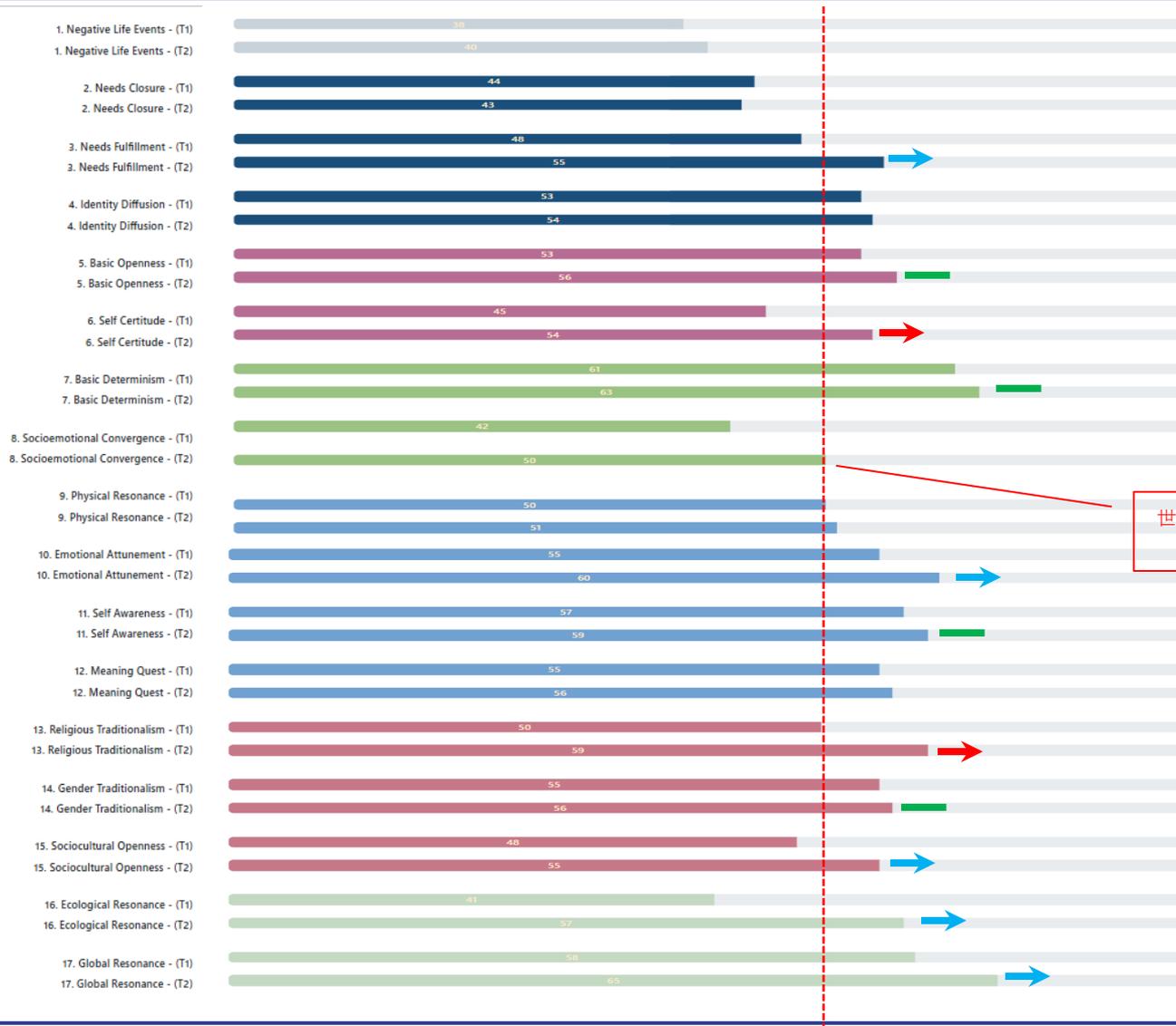
期間： 2024年8月10日～9月1日

参加者： 20名

研修目的： ボランティア

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 ケニア・ボランティア N=19



フルスケールスコアの増減
↕

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青 →

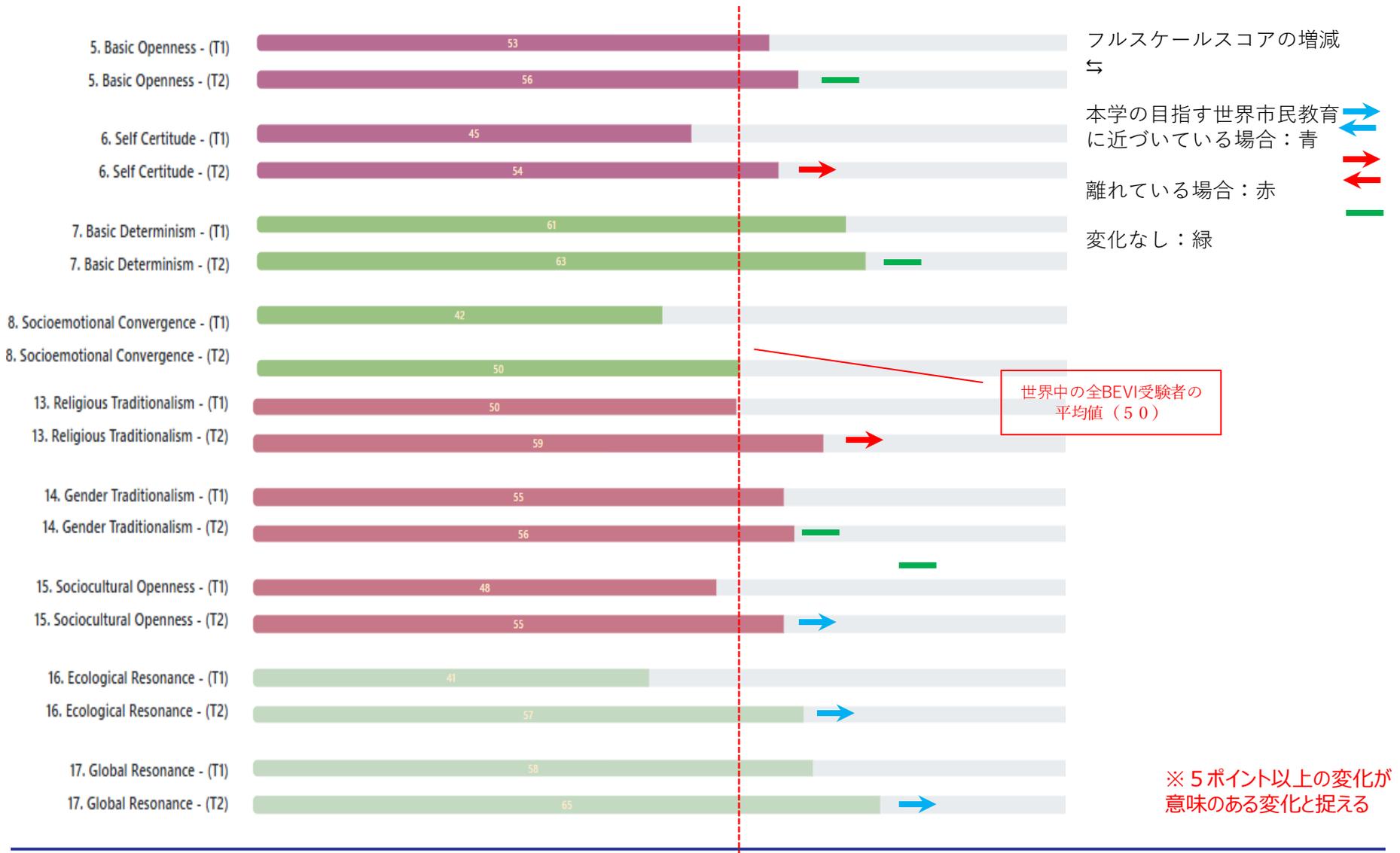
離れている場合：赤 ←

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

国際部 ケニア・ボランティア N=19 (尺度5~8, 13~17)



【WLC イースト大学研修1期、2期】 のBEVIによる分析

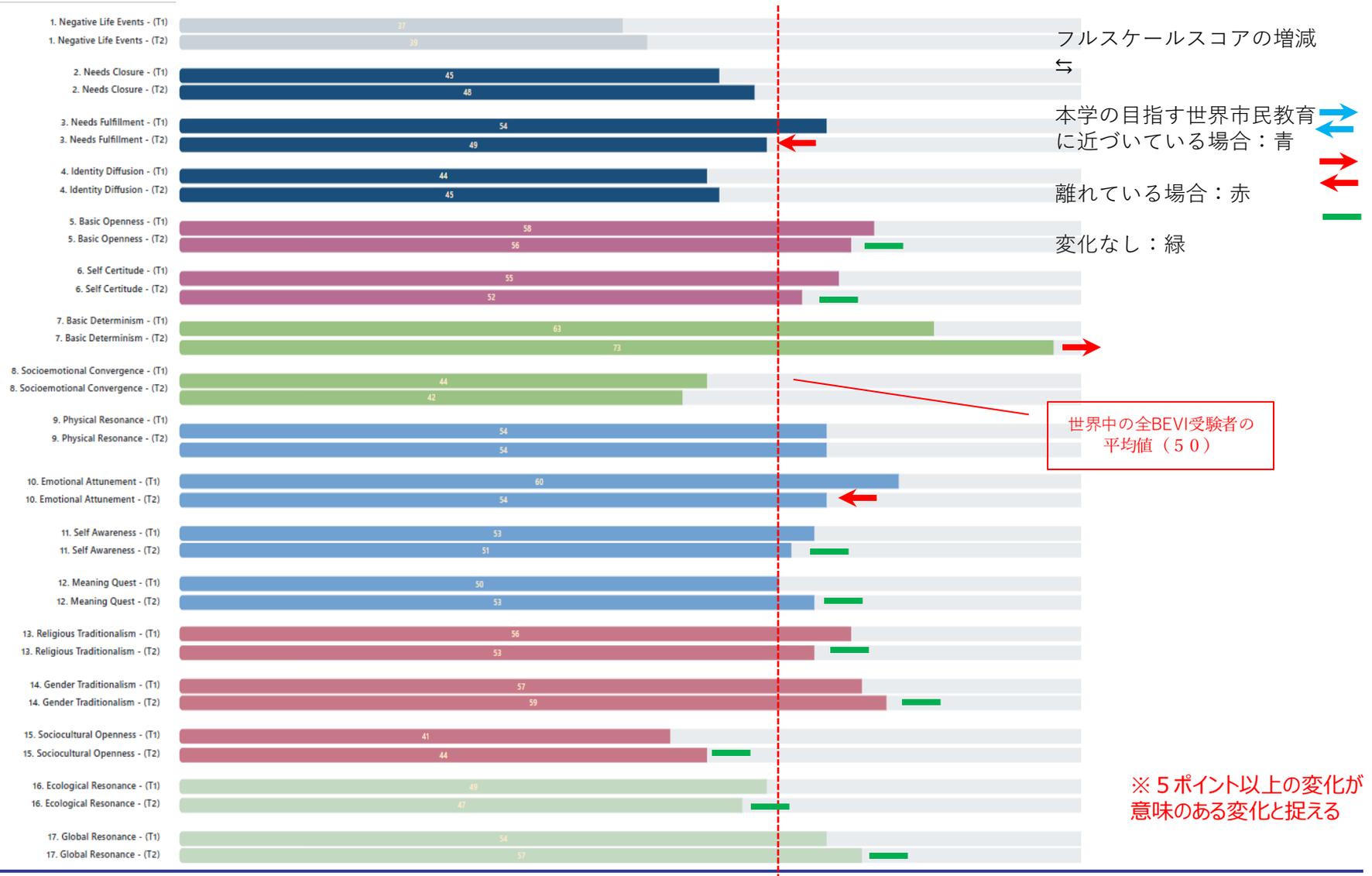
期間： 1期 2024年8月4日～8月19日
2期 2024年8月18日～8月28日

参加者： 不明

研修目的： 語学研修

研修内容： 事前・事後研修や現地学生との交流等を通して、語学習得を目指す、イースト大学の英語教員と共同でカスタマイズした語学研修。

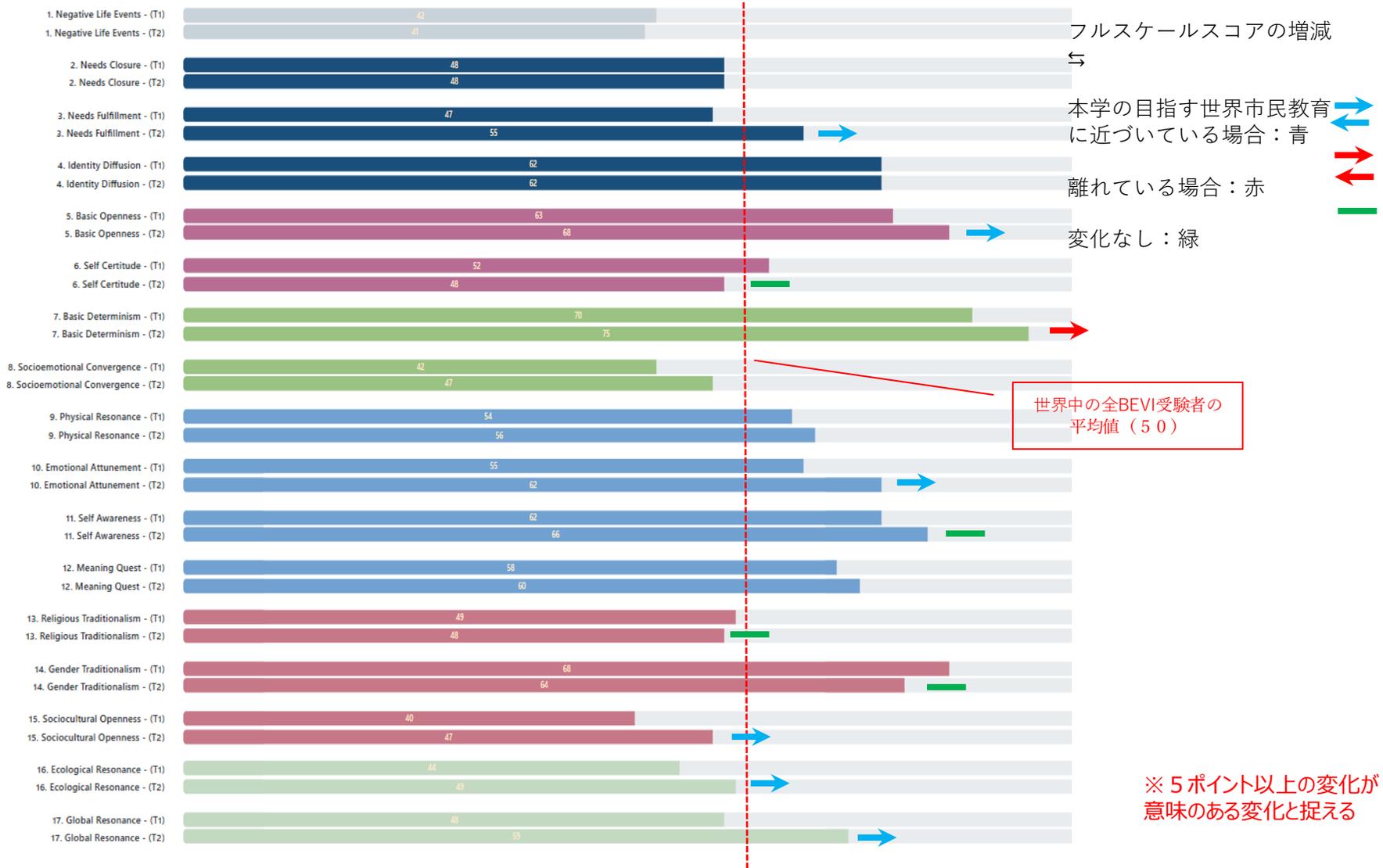
WLC イースト大学研修1期 N=19

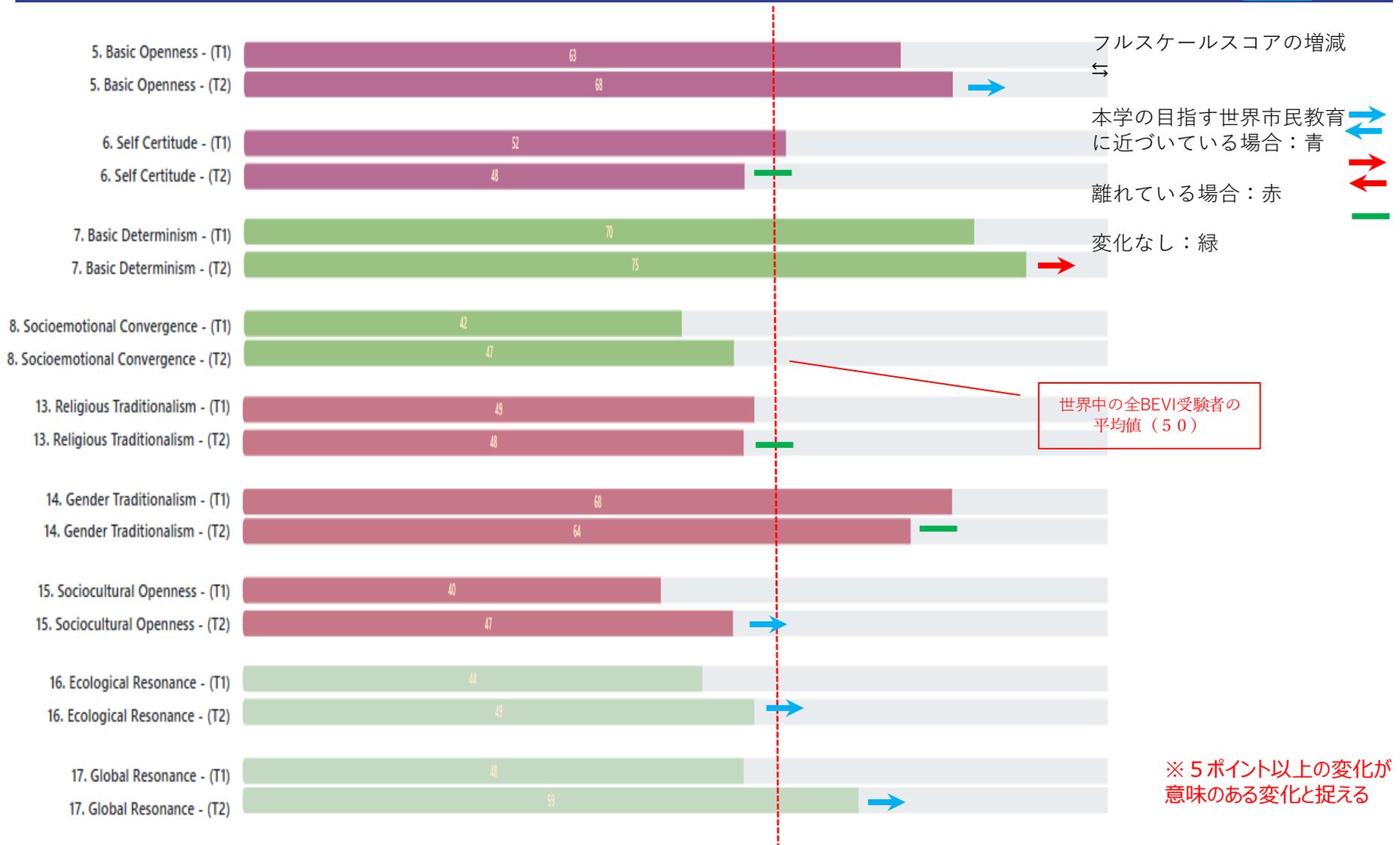


WLC イースト大学研修1期 N=19 (尺度5~8, 13~17)



WLC イースト大学研修2期 N=18





参考資料

グループ平均（まとめ）

- 色付けされている尺度が、フルスケールスコアと呼ばれるものであり、BEVIが測定しようとしている、基本的な開放性、異文化への許容性、宗教的また社会的実践、ステレオタイプな思考の許容（またはその否定）、「自己」と感情認識、また他の人々や文化がなぜそのように行動するのかを説明しようとする思考パターンなどの「中心的な本質」の全体スコアをあらわします。
- **緑色**: 変化がなかった尺度
- **赤色**: フルスケールスコアを減少させた尺度
- **青色**: フルスケールスコアを増加させた尺度を表します。
- フルスケールスコア以外の尺度については、すべて一律で黒色になっています。

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-1.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-短期-アルカラ大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-短期-慶熙大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
国際部-短期-グリフィス大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－1.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-短期-アルカラ大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部-短期-慶熙大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部-短期-グリフィス大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-2.1）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-短期- トゥンクアブ ドゥルラーマン 大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
国際部-短期- FPT大学研修	自身の生き立ちが困難であったとの認識が強くなった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-短期研修 -オストラヴァ大 学研修	自身の生き立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-2.2）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-短期-トウ ンクアブドゥル ラーマン大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部-短期- FPT大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部-短期研修- オストラヴァ大学 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－3.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-インターンシップ-オーストラリア・インターンシップ	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制するようになった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
国際部-ボランティア-ケニア・ボランティア	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制する度合いに変化はなかった(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－3.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-インターンシップ-オーストラリア・インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部-ボランティア-ケニア・ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

グループ平均 WLC主催研修（まとめ-1.1）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
WLC-短期-イースト大学研修1期	自身の生き立ちが困難であったとの認識が強くなった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制するようになった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が増加した。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
WLC-短期-イースト大学研修2期	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが増加した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

グループ平均 WLC主催研修（まとめ-1.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
WLC-短期-イースト大学研修1期	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)
WLC-短期-イースト大学研修2期	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)



SOKA University